

2011 年 5 月 20 日

各 位

2011 年 3 月期決算説明会資料（参考データ集）の一部訂正について

2011 年 5 月 12 日に開催いたしました「2011 年 3 月期 決算説明会」の資料（参考データ集）の一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正させていただきます。

記

1. 訂正ページ

決算説明会資料（参考データ集）5 ページ「生産物回収勘定の増減推移」

2. 訂正内容

別紙のとおりです（訂正部分には下線、および矢印を付しております。）。

3. 訂正理由

2011 年 3 月期の生産物回収勘定の探鉱投資、およびその他の増加額の数字に一部誤りがあったため。

以上

訂正前**生産物回収勘定の増減推移****INPEX**

(百万円)	09年3月期	10年3月期	11年3月期
生産物回収勘定(期首)	383,162	453,922	514,645
増加: 探鉱投資	23,643	10,084	23,851
開発投資	160,589	146,028	120,996
操業費	55,929	54,938	43,819
その他	-	2,670	2,958
減少: コスト回収(CAPEX)	45,724	45,653	50,816
コスト回収(Non-CAPEX)	104,847	107,074	95,665
その他	18,830	270	25,459
生産物回収勘定(期末)	453,922	514,645	534,330
生産物回収勘定引当金	87,828	94,891	96,879

5

訂正後**生産物回収勘定の増減推移****INPEX**

(百万円)	09年3月期	10年3月期	11年3月期
生産物回収勘定(期首)	383,162	453,922	514,645
増加: 探鉱投資	23,643	10,084	<u>23,990</u> ←
開発投資	160,589	146,028	120,996
操業費	55,929	54,938	43,819
その他	-	2,670	<u>2,819</u> ←
減少: コスト回収(CAPEX)	45,724	45,653	50,816
コスト回収(Non-CAPEX)	104,847	107,074	95,665
その他	18,830	270	25,459
生産物回収勘定(期末)	453,922	514,645	534,330
生産物回収勘定引当金	87,828	94,891	96,879

5

参考データ集

国際石油開発帝石株式会社

2011年(平成23年)5月12日

連結子会社および持分法適用関連会社 **INPEX**

連結子会社 53社

主な連結子会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
ジャパン石油開発	アラブ首長国連邦	100%	生産中	3月(仮決算)
ナトゥナ石油	インドネシア	100%	生産中	3月
サウル石油	チモール海・共同開発地域	100%	生産中	12月
インペックス西豪州ブラウズ石油	オーストラリア	100%	開発準備作業中	3月(仮決算)
インペックス南西カスピ海石油	アゼルバイジャン	51%	生産中	3月(仮決算)
インペックス北カスピ海石油	カザフスタン	45%	開発中	3月(仮決算)

持分法適用関連会社 12社

主な持分法適用関連会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
MI Berau B.V.	インドネシア	44%	生産中	12月
アンゴラ石油	アンゴラ	19.6%	生産中	12月
インペックス北カンポス沖石油	ブラジル	37.5%	生産中	12月

セグメント情報

2011年3月期(2010年4月1日～2011年3月31日)

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア	ユーラシア (欧州・NIS諸国)	中東・アフリカ	米州	計	調整額 (注1)	連結財務諸表計上額(注2)
売上高	104,524	406,827	68,318	350,735	12,673	943,080	-	943,080
セグメント利益又は損失(△)	25,959	235,814	36,460	243,112	△3,035	538,311	△8,569	529,742

セグメント資産	240,238	432,323	503,471	245,865	68,022	1,489,921	1,190,458	2,680,379
---------	---------	---------	---------	---------	--------	-----------	-----------	-----------

- (注)1 (1) セグメント利益の調整額△8,569百万円は、セグメント間取引消去232百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△8,801百万円が含まれております。全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しないのれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。
- (2) セグメント資産の調整額1,190,458百万円は、セグメント間取引消去△2,935百万円及び各報告セグメントに配分していない全社資産1,193,394百万円が含まれております。全社資産の主なものは、報告セグメントに帰属しないのれん、現金預金、有価証券、投資有価証券及び管理部門に係る資産であります。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2

LPG売上高

	10年3月期	11年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	185	215	30	16.7%
販売量(千bbl)	3,377	3,487	110	3.3%
海外生産分平均単価 (\$/bbl)	55.74	66.45	10.71	19.2%
国内生産分平均単価 (¥/kg)	111	115	4	3.7%
平均為替(¥/\$)	92.22	88.15	4.07円円高	4.4%円高

地域別販売量(千bbl)	10年3月期	11年3月期	増減	増減率
日本	212 (20.2千ト)	229 (21.8千ト)	17 (1.6千ト)	7.9%
アジア・オセアニア	3,164	3,258	93	2.9%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	-	-	-	-
合計	3,377	3,487	110	3.3%

3

利払い・償却・探鉱費前利益(EBIDAX)

(百万円)	10年3月期	11年3月期	増減	備考
純利益	107,210	128,699	21,489	P/L
少数株主損益	9,691	11,190	1,499	P/L
減価償却相当額	92,766	111,821	19,055	
減価償却費	40,354	54,245	13,891	C/F コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
のれん償却額	6,759	6,760	1	C/F
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	45,653	50,816	5,163	C/F PS契約に係る減価償却費相当額
探鉱費相当額	30,332	26,563	△3,769	
探鉱費	15,710	12,000	△3,710	P/L コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金操入額	6,028	11,481	5,453	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
探鉱事業引当金操入額	8,594	3,082	△5,512	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
重要な非現金項目	4,511	△1,400	△5,911	
法人税等調整額	2,132	1,614	△518	P/L
為替差損益	2,379	△3,014	△5,393	C/F
税引後ネット支払利息	△1,971	△1,944	27	P/L 税引後の支払利息－受取利息
EBIDAX	242,539	274,929	32,390	

4

生産物回収勘定の増減推移

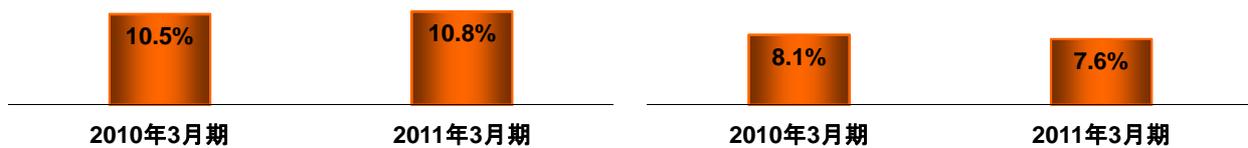
(百万円)	09年3月期	10年3月期	11年3月期
生産物回収勘定(期首)	383,162	453,922	514,645
増加:			
探鉱投資	23,643	10,084	23,990
開発投資	160,589	146,028	120,996
操業費	55,929	54,938	43,819
その他	-	2,670	2,819
減少:			
コスト回収(CAPEX)	45,724	45,653	50,816
コスト回収(Non-CAPEX)	104,847	107,074	95,665
その他	18,830	270	25,459
生産物回収勘定(期末)	453,922	514,645	534,330
生産物回収勘定引当金	87,828	94,891	96,879

5

収益性指標

ネットROACE*

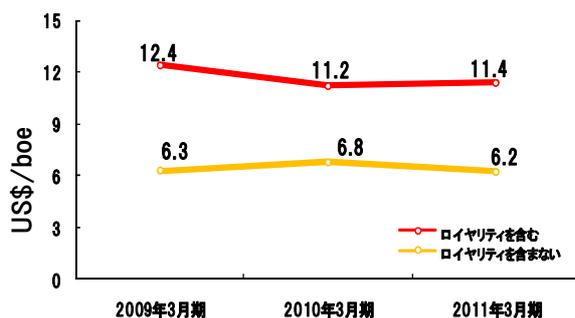
ROE**



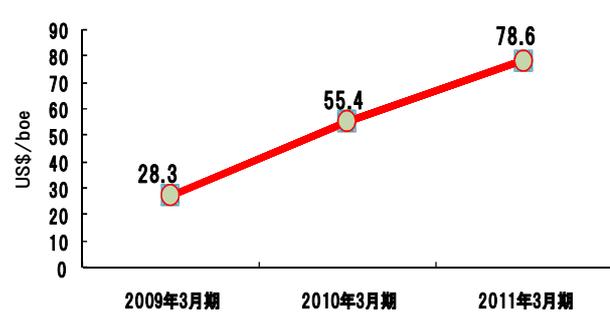
* ネットROACE = (当期純利益 + 少数株主損益 + (支払利息 - 受取利息) × (1 - 実効税率)) / (純資産及び純有利子負債)の期初と期末の平均値
 ** ROE = 当期純利益 / (純資産 - 少数株主持分)の期初と期末の平均値

埋蔵量・生産量指標

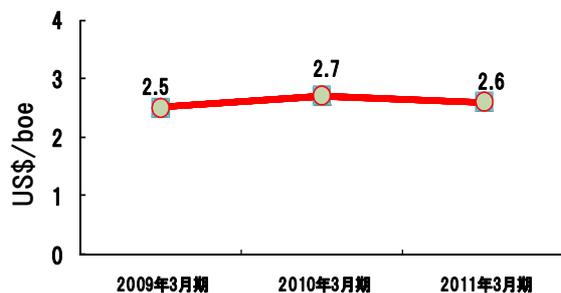
原油換算1バレル当たりの生産コスト



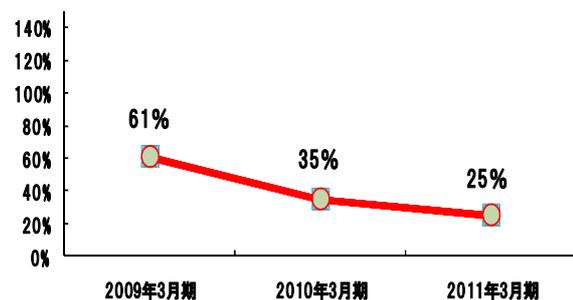
原油換算1バレル当たりの探鉱・開発コスト*(3年平均)



原油換算1バレル当たりの販売費及び一般管理費



リザーブリプレースメントレシオ*(3年平均)

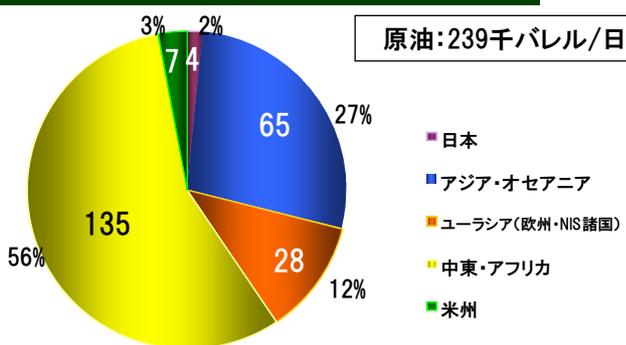


*今後、イクシス、アバディ、カシャガン、ADMA 鉱区等のプロジェクトについて、最終投資決定や鉱区期限の延長等が実現すれば、推定・予想埋蔵量/資源量が確認埋蔵量に格上げされ、リザーブリプレースメントレシオは中長期的に平均100%以上となる見込みであり、また、探鉱・開発コストも大きく減少する見通しである。

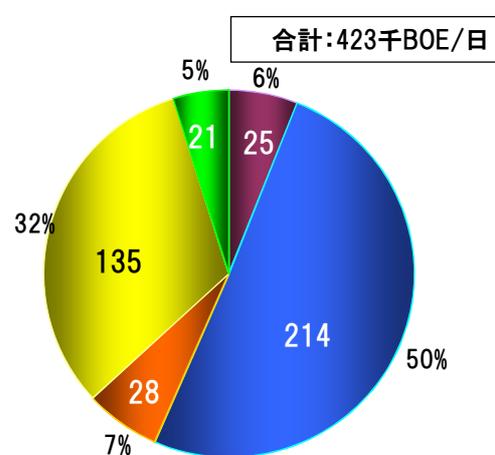
生産量*(2010年4月-2011年3月)

INPEX

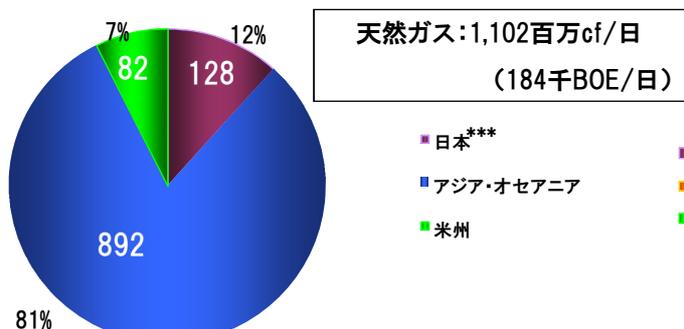
原油*



原油・天然ガス合計



天然ガス

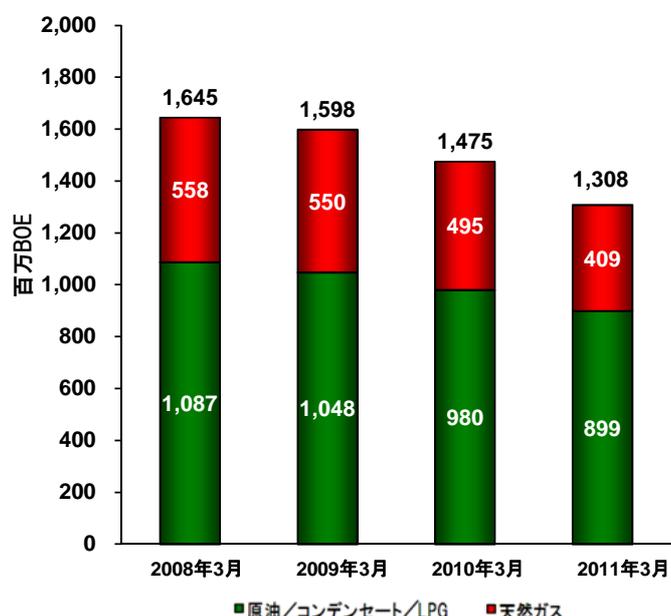


* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。
 ** 原油には、コンデンセート及びLPGを含みます。
 *** 1m³当たり41.8605MJ

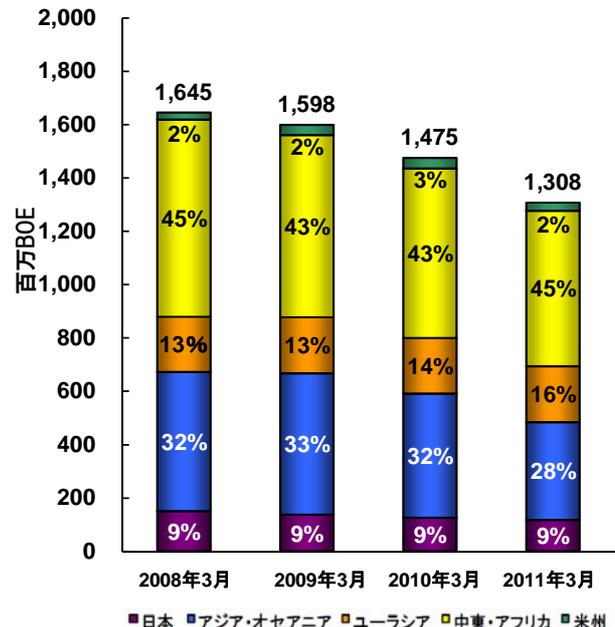
確認埋蔵量*

INPEX

製品別

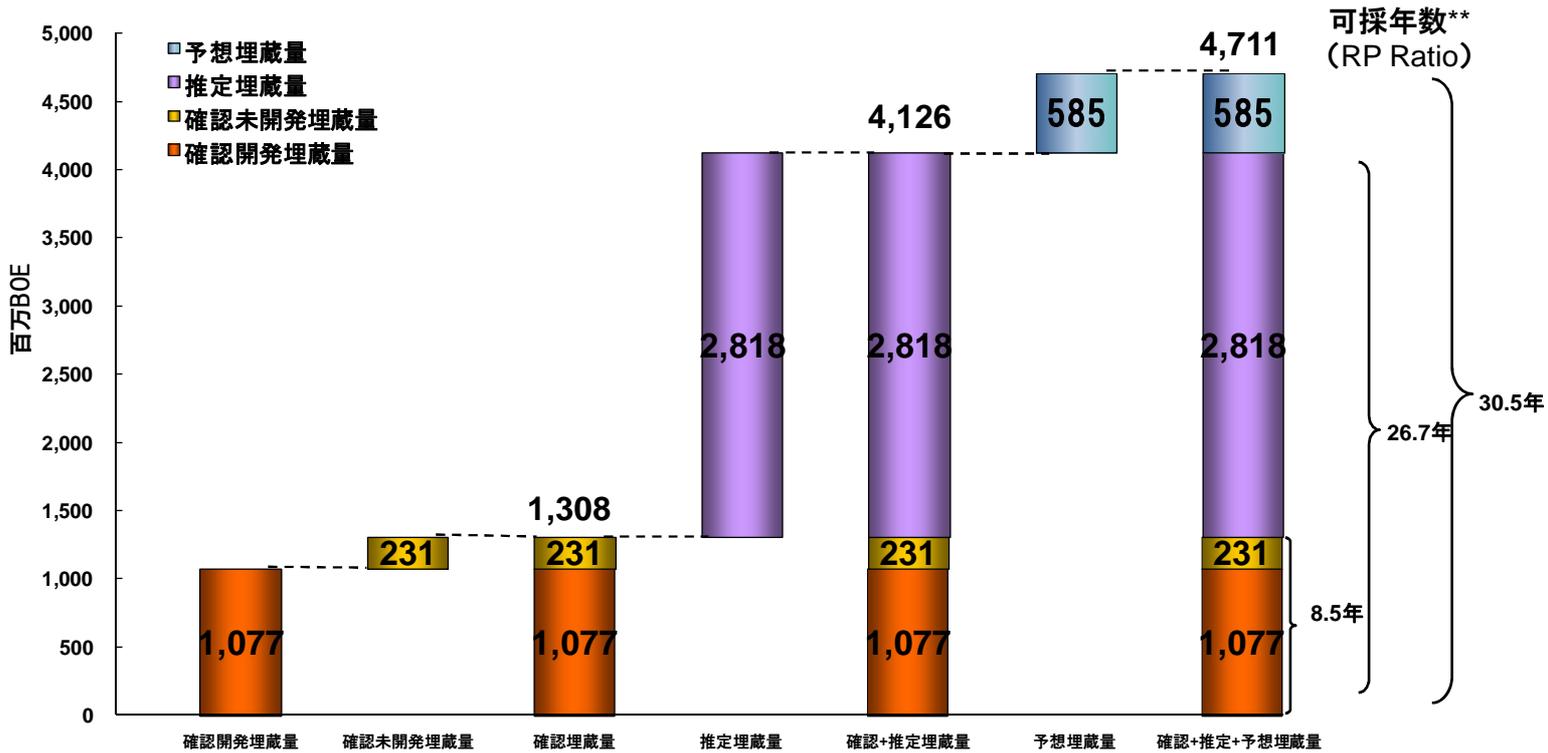


地域別



* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer & MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値(暫定値)である。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC)規則に従い評価・算定している。

確認・推定・予想埋蔵量*による アップサイドポテンシャル



*埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer&MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値(暫定値)である。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC)規則に従い評価・算定している。推定・予想埋蔵量は、SPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSIに従い評価・算定している。

**可採年数=2011年3月末「確認埋蔵量」、「確認埋蔵量+推定埋蔵量」、「確認埋蔵量+推定埋蔵量+予想埋蔵量」/2011年3月期生産量実績 (RP Ratio: Reserve Production Ratio)



プロジェクト参考データ

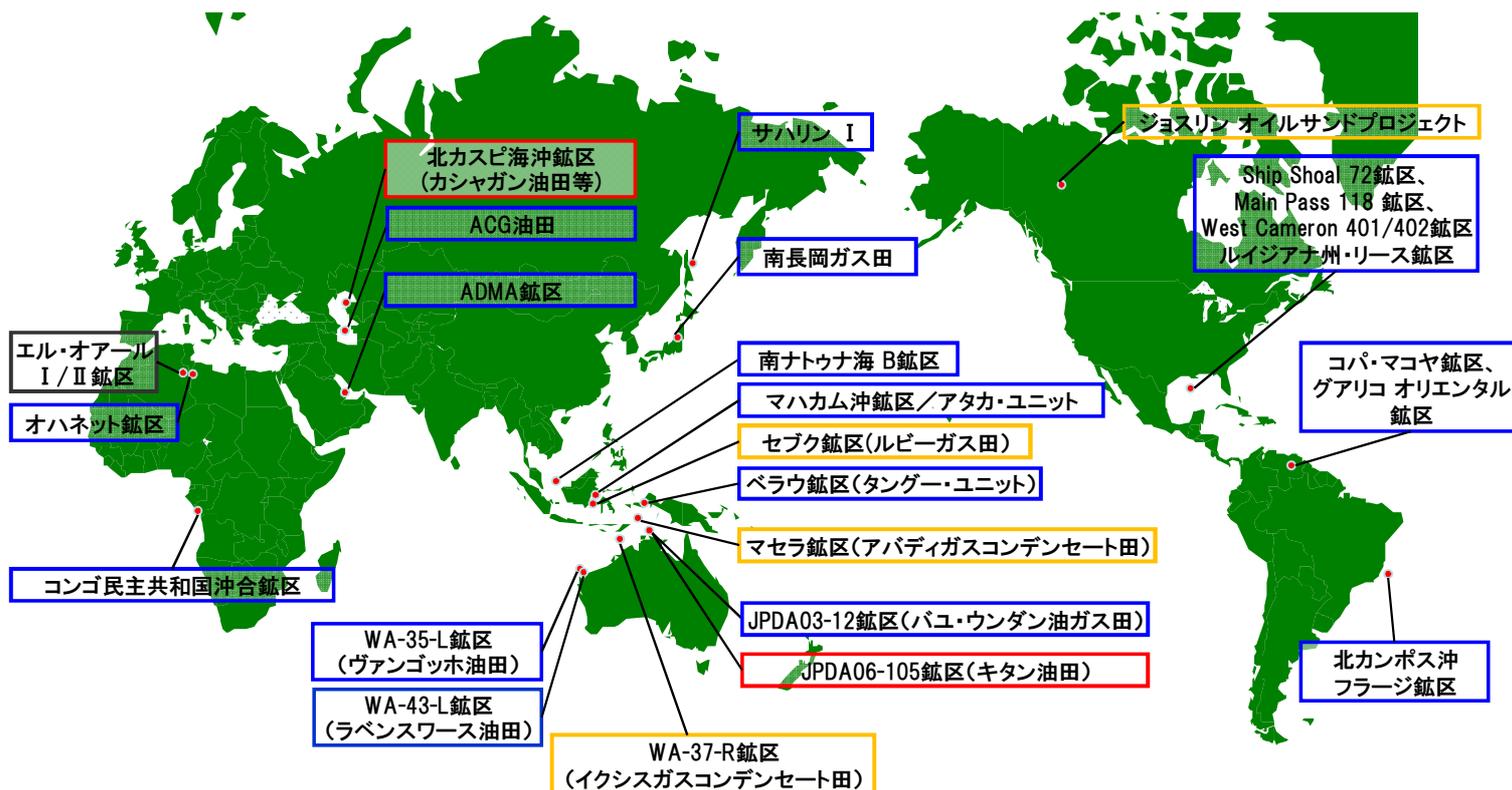
2012年3月期 探鉱計画*



* ()内の数字は掘削坑井数
** オペレータープロジェクト

	探鉱投資額(億円)	試掘井(本)	2D震探(km)	3D震探(km ²)
2011年3月期(実績)	325	13	56	3,410
2012年3月期(予想)	540	12	199	4,653

主な生産・開発プロジェクト



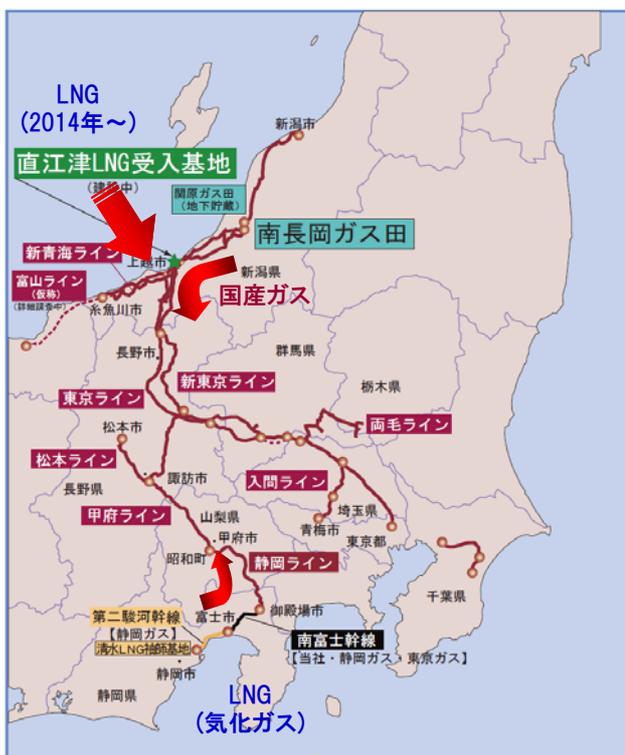
 生産中
 開発中
 開発準備作業中(既発見)
 開発検討中(既発見)

生産開始スケジュール

生産開始	プロジェクト・油ガス田	国	オペレーター	ピーク生産量・生産キャパシティ	当社シェア*1
2010年8月	ラベンスワース油田	オーストラリア	BHPBP	- *2	28.5%
2011年下半年	キタン油田	JPDA *3	ENI	4万bbl/日	35%
2012年度(2012年4月～2013年3月)	カシャガン油田	カザフスタン	NCOC *4	150万bbl/日	7.56%
	バフルガス田(南ナトゥナ海B鉱区)	インドネシア	ConocoPhillips	- *2	35%
	サウスマハカムガス田(マハカム沖鉱区)	インドネシア	TOTAL	未定	50%
2013年度(2013年4月～2014年3月)	ルビーガス田(セブク鉱区)	インドネシア	パールエナジー	100MMscf/日	15%
	サウスブルットガス田(南ナトゥナ海B鉱区)	インドネシア	ConocoPhillips	- *2	35%
	ウムルル油田	アラブ首長国連邦	ADMA-OPCO *5	- *2	12.0%
	ナスル油田	アラブ首長国連邦	ADMA-OPCO *5	- *2	12.0%
2014年度以降(2014年4月以降)	ジョスリンオイルサンドプロジェクト(露天掘り)	カナダ	TOTAL	20万bbl/日	10%
	イクシスLNGプロジェクト(LNG) (コンデンセート) (LPG)	オーストラリア	当社	840万ト/年 約10万bbl/日	76%
	アバディLNGプロジェクト	インドネシア	当社	160万ト/年 250万ト/年	90%
既発見・生産開始未定	クダ・タン/ジャハール構造	JPDA *3	ENI	未定	35%
	コニストン/ノバラ構造	オーストラリア	Apache	未定	41.324%
	カイラン/アクトテ/カラムカス/カシャガンサウスウェスト構造	カザフスタン	NCOC *4	未定	7.56%
	エルオアールI&II	アルジェリア	ENI	未定	10.29%

*1 当社シェアは、鉱区権益比率。ただし、持分法適用関連会社分は、鉱区権益比率に当社出資比率を乗じたもの
 *2 プロジェクトパートナー各社との守秘義務上、公開不可
 *3 Joint Petroleum Development Area (Timor Sea)
 *4 North Caspian Operating Company
 *5 Abu Dhabi Marine Operating Company

国内天然ガス事業 国際石油開発帝石 INPEX



国内パイプラインネットワーク

生産量*

- ・天然ガス: 約3.4百万m³/日 (129百万cf/日)**
- ・原油・コンデンセート: 約4千バレル/日

天然ガス販売状況

- ・静岡ガス(株)からのLNG導入によりソースを多元化(2010年1月～)
- ・2011年3月期販売量: 17.2億m³**
- ・2012年3月期販売量見通し: 17.4億m³**
- ・中長期的に25～30億m³の需要を想定

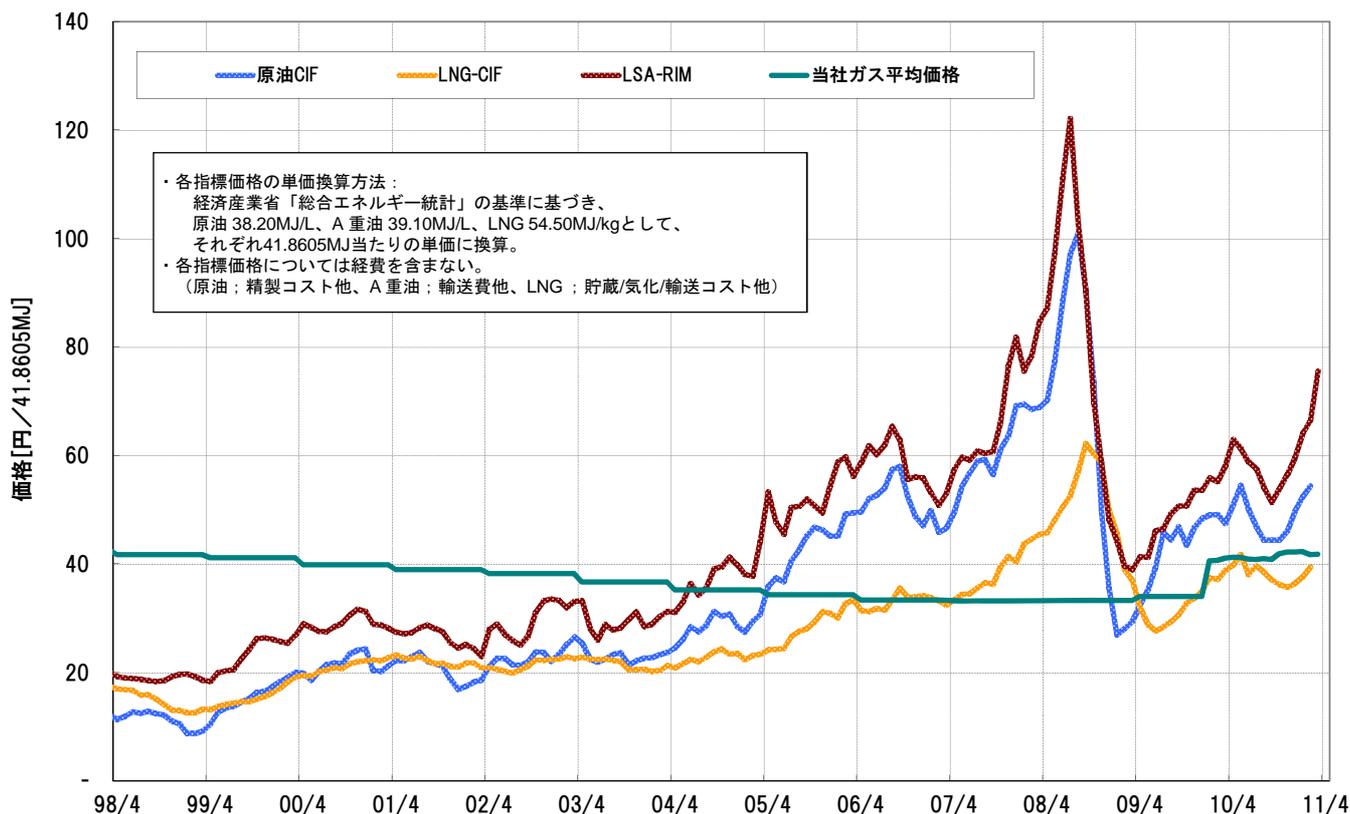
直江津LNG受入基地の建設(2014年操業開始予定)

- ・当社グループによるガスサプライチェーン構築へ

* 国内油田・ガス田の合計(2011年3月期平均日産量)

** 1m³当たり41.8605MJ

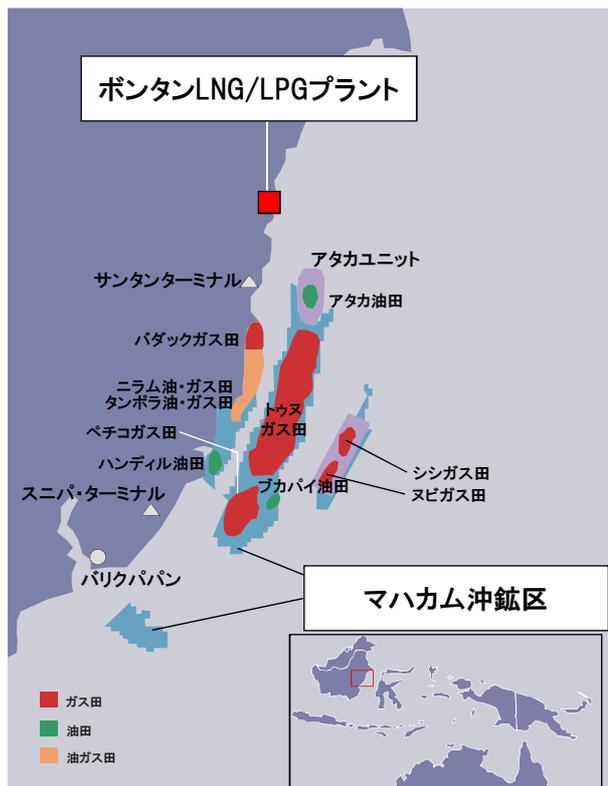
単位あたりの価格の比較



16

マハカム沖鉱区

国際石油開発帝石



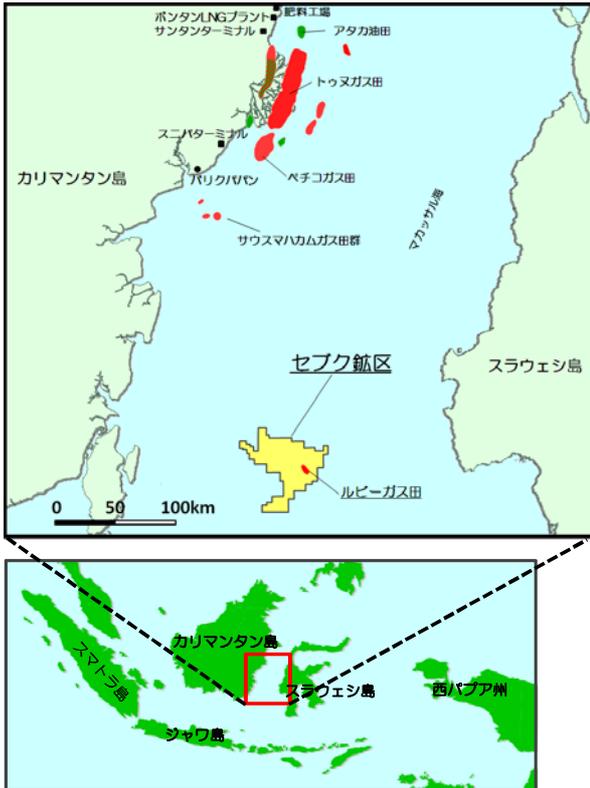
*全鉱区ベース、2011年3月平均日産量

- 当社権益比率： 50%
(オペレーター：TOTAL)
- 生産量*
 - ・原油・コンデンセート： 日量約9.4万バレル
 - ・天然ガス： 日量約19.7億立方フィート
- PS契約： 2017年まで
- ボンタンLNG基地へのガス安定供給を目的として開発作業を継続
 - ・トウヌ／ペチコガス田の段階的開発
 - ・タンボラ油・ガス田の追加開発
 - ・シシ／ヌビ ガス田の開発
 - ・サウスマハカムガス田の開発着手
- 2009年2月、日本向けLNG販売契約の更新に係る基本合意書締結
- 2010年10月、西ジャワ洋上LNG受入基地へのLNG販売契約に係る基本合意書締結
- PS契約の更新に向けTOTALとともにインドネシア当局と交渉継続中

17

セブク鉱区(ルビーガス田)

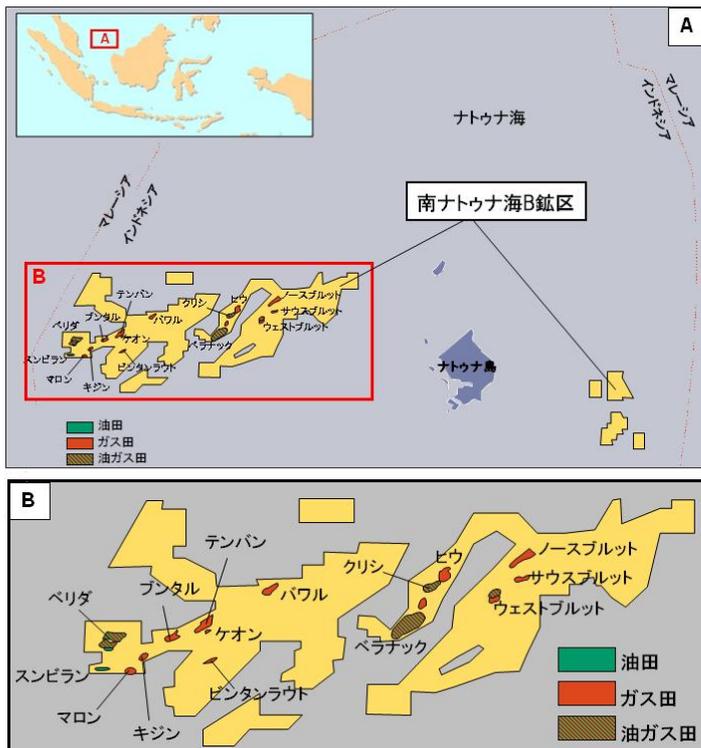
南マカッサル石油



- 当社権益比率: 15%
(オペレーター: Pearl Energy)
- PS契約: 2027年まで
- 2008年7月、インドネシア政府よりルビーガス田の開発計画が承認
- 2010年8月、オペレーターであるPearl Energyと締結した権益譲渡契約のインドネシア政府承認を取得(当社15%権益取得)
- 2013年、生産開始予定
- マハカム沖鉱区既存施設へ繋ぎ込みによる開発
- 生産ガスの大部分をインドネシア国内肥料工場向けとして供給予定

南ナトゥナ海B鉱区

ナトゥナ石油

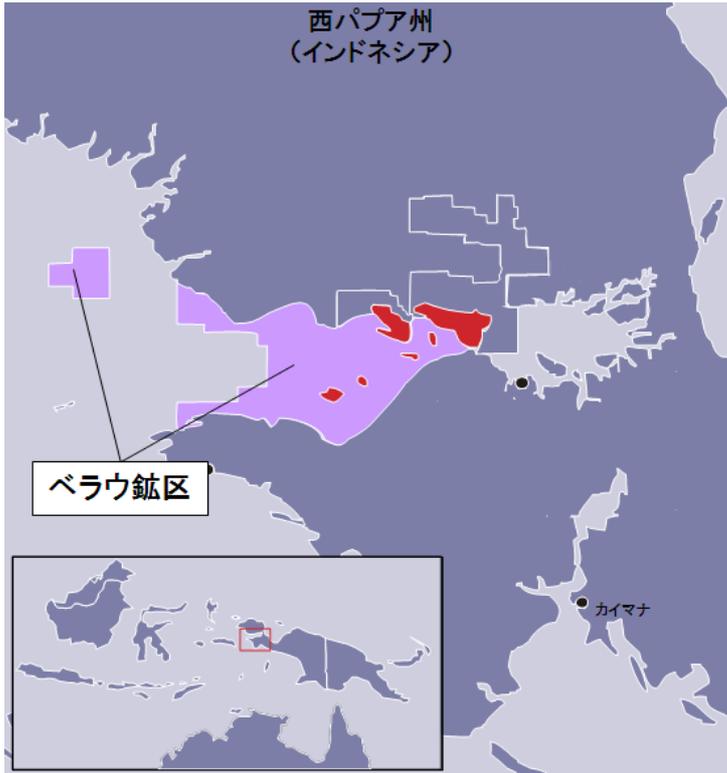


- 当社権益比率: 35.0%
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量*:
 - ・ 原油・コンデンセート: 日量約5.2万バレル
 - ・ 天然ガス: 日量約4億立方フィート
- PS契約: 2028年まで
- SembCorp社(シンガポール)と2001年より22年間、Petronas(マレーシア)と2002年より20年間の天然ガス販売契約締結
- 2004年12月、世界有数規模のFPSOで操業を行うベラナック油ガス田より原油・コンデンセートの生産を開始
- 2007年4月、ベラナック油ガス田よりLPGの生産を開始
- 2007年12月、クリシ油ガス田より生産開始
- 2009年11月、ノースブルットガス田より生産開始
- 2010年10月、ベラナックLPG貯蔵出荷施設の修理のため、LPG生産を停止中
- 2012年、パワルガス田の生産開始予定
- 2013年、サウスブルットガス田の生産開始予定

* 全鉱区ベース、2011年3月平均日産量

ベラウ鉱区(タンゲーLNGプロジェクト) MI Berau B.V./MIベラウジャパン

INPEX



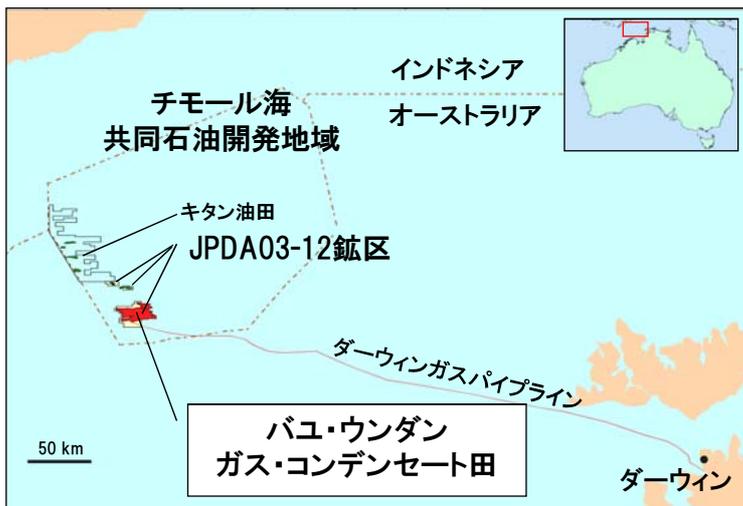
- MI Berau/MIベラウジャパン*:
三菱商事とのJV(当社44%、三菱商事56%)
*MIベラウジャパンはケージーベラウ石油開発に約16.5%出資
- 権益比率:
・MI Berau分:
ベラウ鉱区 22.9%(タンゲー・ユニット 16.3%)
・ケージーベラウ石油開発分:
ベラウ鉱区 12%(タンゲー・ユニット 8.56%)
(オペレーター:BP)
- 生産量*
・コンデンセート: 日量約3千バレル
・天然ガス: 日量約4.2億立方フィート
- PS契約: 2035年まで
- 生産計画: 年間760万トン
- 2009年7月、LNG船第1船出荷

20

* 全鉱区ベース、2011年3月平均日産量

バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田(JPDA03-12鉱区) サウル石油

INPEX



- 当社権益比率: 11.378120%
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量*
・コンデンセート: 日量約5.6万バレル
・LPG: 日量約3.3万バレル
・天然ガス: 日量約5.1億立方フィート
- PS契約: 2022年まで
- 2004年2月にコンデンセート/LPG販売開始
- 2005年8月、東京電力/東京ガスとLNG販売契約締結(2006年から17年間、年間300万トン)、2006年2月、LNG販売開始

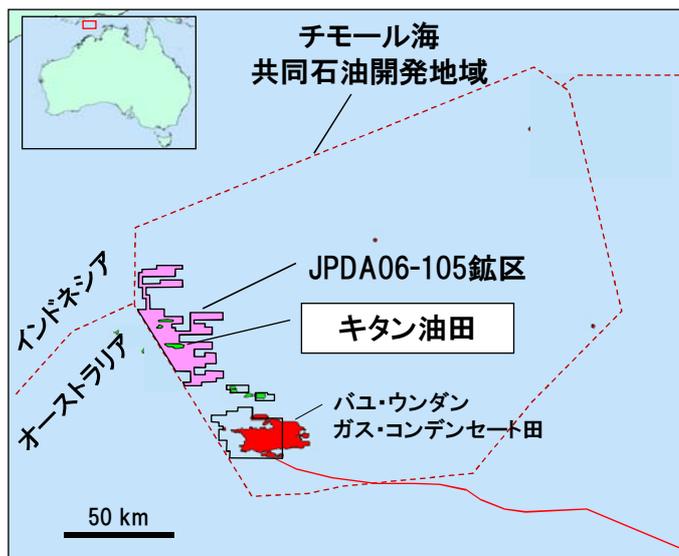
21

* 全鉱区ベース、2011年3月平均日産量

キタン油田(JPDA06-105鉱区)

インペックスチモールシー

INPEX



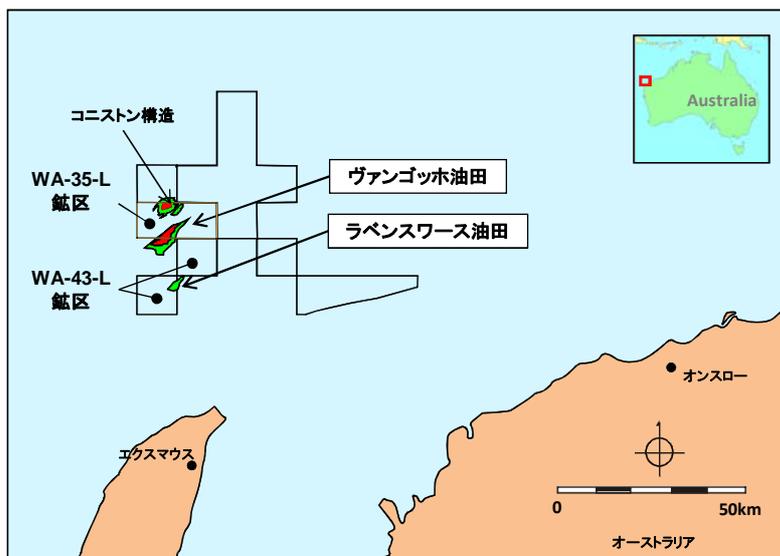
- 当社権益比率: 35%
(オペレーター: Eni)
- PS契約: 2035年4月まで(キタン油田)
- 2008年3月、試掘井キタン1号井及び評価井キタン2号井において原油を確認
- 2008年4月、キタン油田商業発見宣言
- 2010年4月、キタン油田の最終開発計画に対し共同管轄当局の承認取得
- 2011年下半年期、生産開始予定

22

ヴァンゴッホ油田、及びラベンスワース油田

アルファ石油

INPEX



ヴァンゴッホ油田(WA-35-L鉱区)

- 当社権益比率: 47.499%
(オペレーター: Apache)
- 利権契約(2008年10月生産ライセンス取得)
- 2010年2月原油生産開始
- 生産量*: 原油: 日量約1.5万バレル

ラベンスワース油田(WA-43-L鉱区)

- 当社権益比率: 28.5%
(オペレーター: BHPBP)
- 利権契約(2009年11月生産ライセンス取得)
- 2007年11月開発移行決定
- 隣接するWA-42-L鉱区の生産施設への繋ぎ込みによる開発
- 2010年8月に生産開始
- 生産量*: 原油: 日量約4.1万バレル

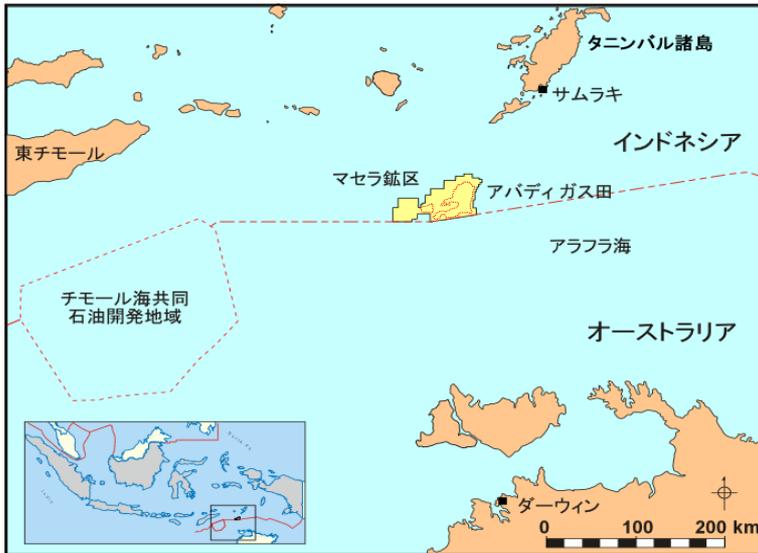
* 全鉱区ベース、2011年3月平均日産量

23

マセラ鉱区(アバディ)

インペックスマセラアラフラ海石油

INPEX

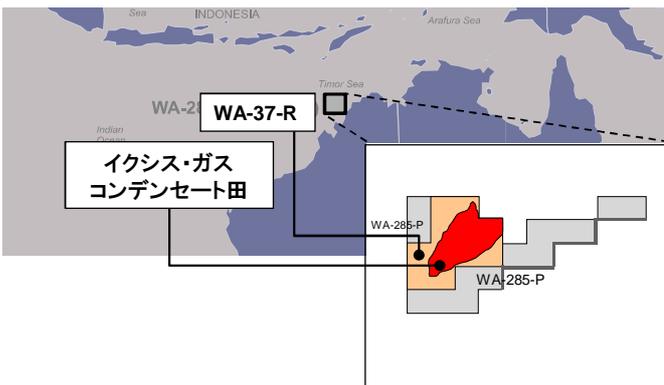


- 当社権益比率:90%(オペレーター)
- 2010年11月、インドネシア・バクリーグループ企業PT EMP Energi Indonesia社(EMPI)への10%参加権益譲渡
- PS契約:
 - ・探鉱期間10年間(2008年まで)
 - ・開発・生産期間20年間(2028年まで)
- 2000年に試掘井アバディ1号にて天然ガスを発見。2002年に評価井2坑を掘削。2007年5月より4坑の評価井掘削を実施
- 2010年12月、開発計画(POD-1)についてインドネシア政府より承認を取得
 - (第一次開発)
 - 開発方式:Floating LNG
 - LNG生産量:年間250万トン
 - コンデンセート生産量:日量8,400バレル
- 現在、FEED準備作業並びに環境社会影響調査(AMDAL)の手続きを実施中
- ガス田埋蔵量に応じた追加開発の検討を継続

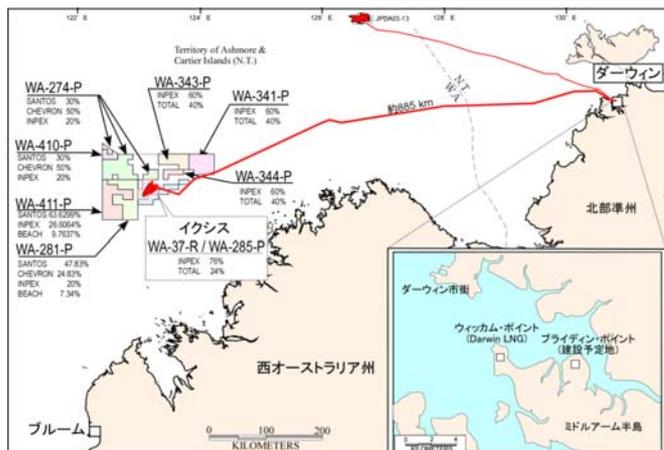
WA-37-R鉱区(イクシス)及びWA-285-P鉱区

インペックス西豪州ブラウズ石油(1/2)

INPEX



- 当社権益比率: 76.0%
- オペレーター: 当社
- 利権契約:
 - ・ WA37R(リテンションリース) 2014年9月まで
 - 生産期間はライセンス付与から生産終了まで
 - LNG年間約840万トン、コンデンセート日量約10万バレル(ピーク)、LPG年間約160万トン生産予定
 - ・ WA-285-P(探鉱鉱区) 2015年7月まで



WA-37-R鉦区(イクシス)及びWA-285-P鉦区 インペックス西豪州ブラウズ石油(2/2)

INPEX

■開発作業

- 2000年より計6坑井を掘削し大規模天然ガス・コンデンセート田を確認、イクシス構造と命名
- 2006年8月、長期にわたり豪経済発展に貢献するプロジェクトとして、豪州連邦政府が主要促進プロジェクトに認定
- ガス埋蔵量の拡大を目的として、試掘井Dinichthys North-1を2007年4月より、また試掘井Ichthys West-1を2008年4月より掘削し、計8坑の試探掘を実施
- 2008年9月、ガス液化プラント建設地を北部準州ダーウィンに決定
- 2009年1月、ガス液化プラントの基本設計作業(FEED)開始
- 2009年4月、イクシス ガス・コンデンセート田沖合生産施設・パイプラインの基本設計作業(FEED)開始
- 2010年11月、沖合生産・処理施設(Central Processing Facility)のEPC入札作業開始
- 2010年12月、陸上天然ガス液化(LNG)プラントのEPC準備作業開始
- 2011年3月、液化プラントのエンジニアリング作業終了。EPC準備作業中。 沖合施設のエンジニアリング作業継続中

■環境許認可

- 2006年5月、豪州連邦政府及び西豪州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2008年5月、豪州連邦政府及び北部準州政府に対し、プロジェクトの環境影響審査手続きを開始
- 2010年7月-9月、環境影響評価報告書(EIS)のパブリックレビューを実施。
- 2011年4月、パブリックレビュー時のコメントを踏まえ追加レポート(サプリメント)を政府へ提出。年央に政府より環境許可を取得予定

■生産ライセンス

- 2009年9月、イクシスガス・コンデンセート田をカバーするブロックにつきWA-37-R鉦区としてリテンションリースが付与(WA-37-R以外のブロックについては従前通りWA-285-P鉦区として探鉦作業継続中)
- 2011年4月、鉦区開発計画書(FDP)及び生産ライセンス申請書を政府に提出。

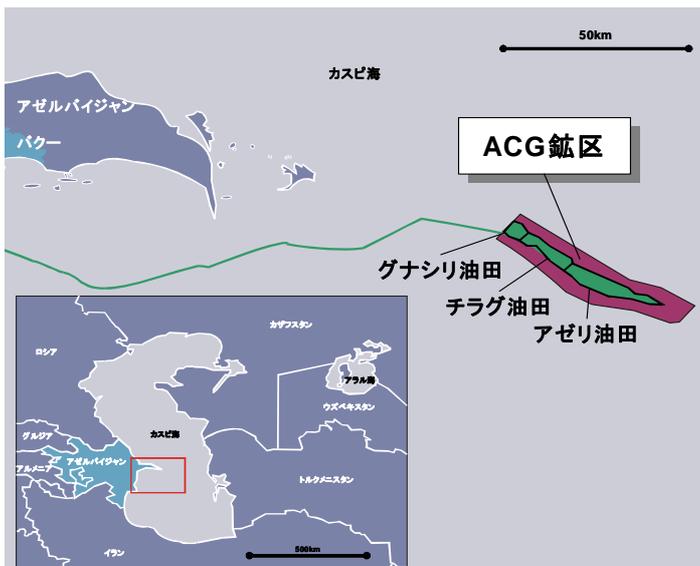
■その他

- 2009年4月、ダーウィン事務所開設
- 2010年10月、豪州パースにおける組織体制を強化

26

ACG油田 インペックス南西カスピ海石油

INPEX



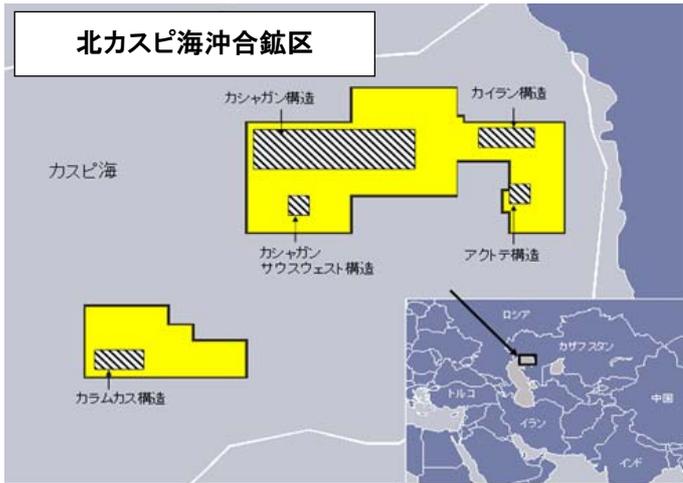
- 当社権益比率: 10.9644%(オペレーター: BP)
- 生産量*: 日量約77.2万バレル
- PS契約: 2024年まで
- チラグ油田1997年生産開始
- フェーズ1: アゼリ油田中央部2005年2月に生産開始
- フェーズ2: アゼリ油田西部2005年12月に生産開始、アゼリ油田東部2006年10月に生産開始
- フェーズ3: グナシリ油田深海部2008年4月に生産開始
- 2010年3月、追加開発(Chirag Oil Project)の政府承認
- 2010年8月、参加権益の一部を追加取得(10%→10.9644%)

* 全鉦区ベース、2011年3月平均日産量

27

カシャガン油田ほか インペックス北カスピ海石油

INPEX



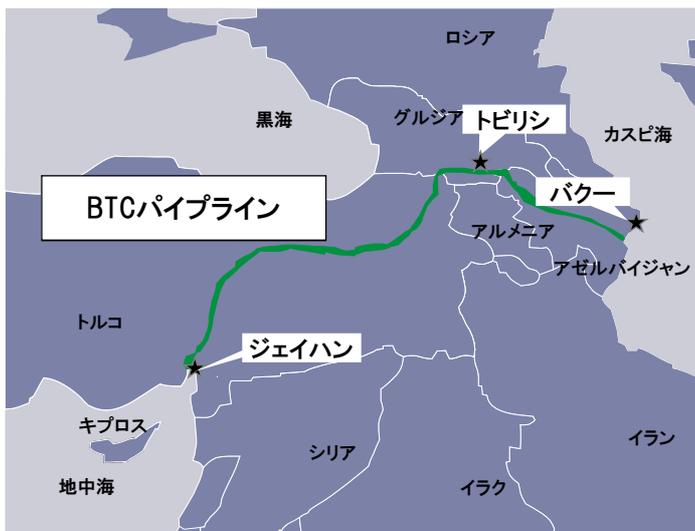
- 当社権益比率: 7.56%(オペレーター: NCOC(North Caspian Operating Company))
- PS契約: 2021年末まで*
- 2000年6月カシャガン構造において原油発見
- カシャガン油田以外にもカラムカス/アクトテ/カイルン/南西カシャガンの4構造にて炭化水素の存在を確認
- 2008年10月、カザフスタン政府と最終合意に到達。新操業会社(North Caspian Operating Company)を設立し、2009年1月より、同社がオペレーターAgip KCO社の役割を承継
- 2012年末、生産開始目標
- 第一段階の開発(Experimental Program):原油生産量は、段階的に日量37万バレル、続いて45万バレルに逐次増加

*20年間の延長オプション有り

28

BTC(BakuTbilisiCeyhan)パイプラインプロジェクト INPEX BTC Pipeline, Ltd.

INPEX

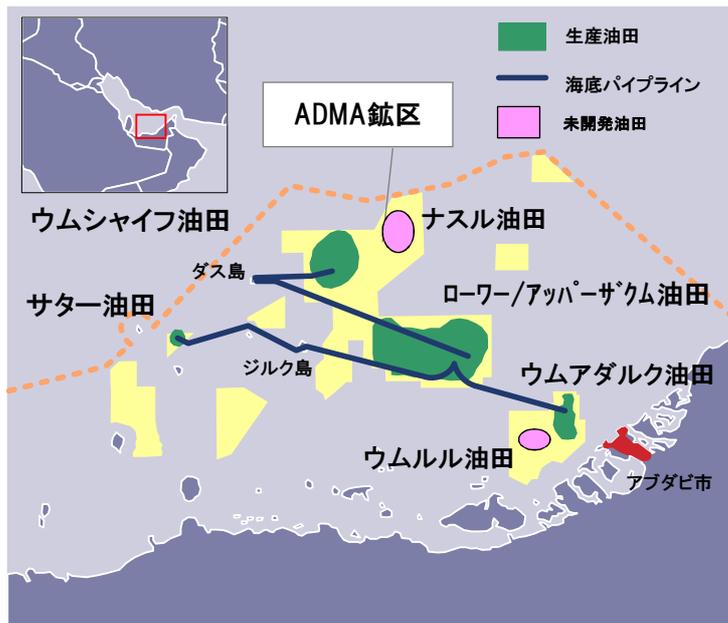


- 当社権益比率:2.5%(オペレーター:BP)
- 2002年10月、当社、参加権益2.5%取得
- 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
- 2009年3月、輸送能力日量120万バレルまでの拡張作業を完了
- 2010年9月13日、累計10億バレル出荷を達成

29

ADMA鉦区 ジャパン石油開発(JODCO)

INPEX

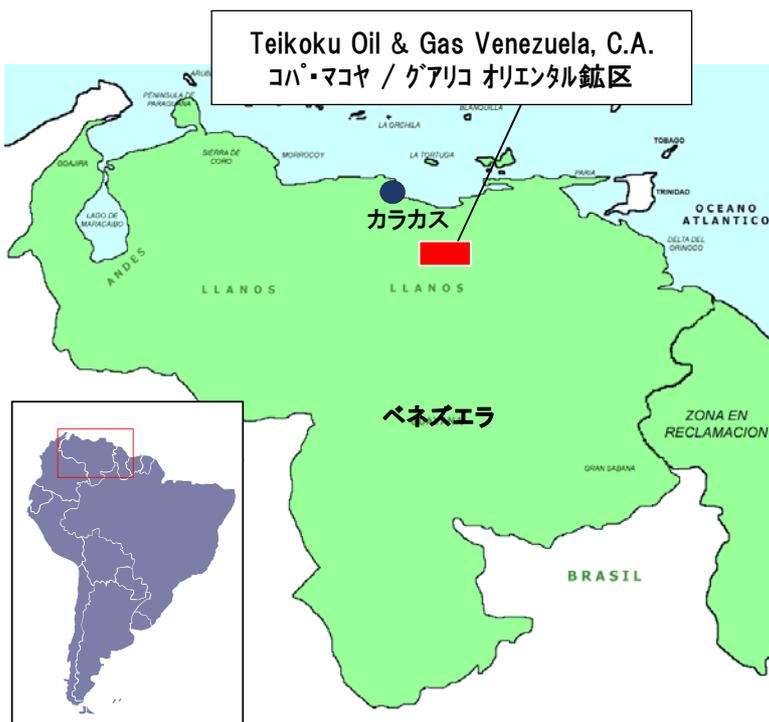


- ウムシャイフ/ローワーザクム油田
 - ・当社権益比率: 12.0%(オペレーター: ADMA-OPCO*)
- アッパーザクム/ウムアダルク/サター油田
 - ・当社権益比率:
アッパーザクム/ウムアダルク 12.0%
サター 40.0%(オペレーター: ZADCO*)
 - *アブダビ国営石油会社とJODCOなどで設立した操業会社。
JODCOから両社へそれぞれ12%を出資。
- 利権契約: 2018年まで(但し、アッパーザクム油田は2026年まで)
- 生産量維持・拡大のため開発作業を継続中
 - ・全油田で水圧入を実施
 - ・ウムシャイフ/ローワーザクムでガス圧入実施
 - ・有望未開発油田の開発計画策定作業
 - ・新ガス圧入施設(ウムシャイフ)、追加ガス処理施設(ローワーザクム)設置工事終了し、稼働開始
 - ・人工島を利用した再開発計画策定作業(アッパーザクム)

30

ベネズエラ プロジェクト Teikoku Oil & Gas Venezuela, C.A.ほか

INPEX



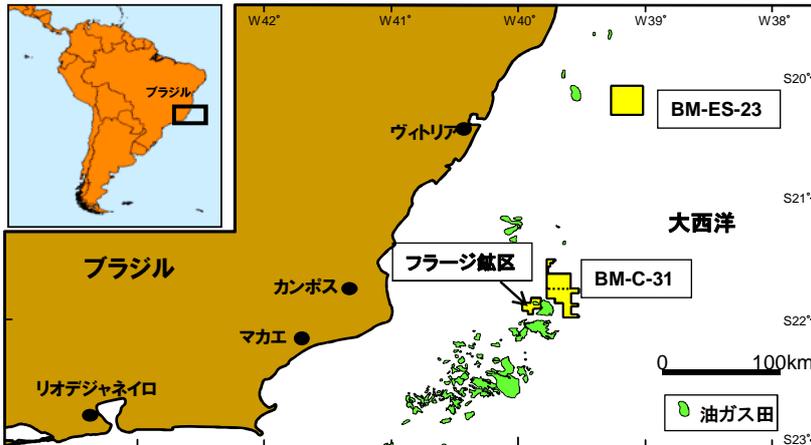
- コパ・マコヤ (ガス事業)/
グアリコ オリエンタル鉦区(原油事業)
- ジョイントベンチャー出資比率
 - ・ガス事業: 70%、原油事業: 30%
- ジョイントベンチャー契約
 - ・2006-2026年
- 生産量*
 - ・ガス: 日量約75百万立方フィート
 - ・原油: 日量約1千バレル

* 全鉦区ベース2011年3月平均日産量

31

ブラジル プロジェクト フラージ鉱区ほか

INPEX



フラージ鉱区(Frade Japã o Petr6leo Limitada (FJPL))

- 権益比率: FJPL*18.3% (オペレーター: Chevron)
- *持分法適用関連会社(当社はFJPLの37.5%の株式を保有)
- 生産量*:
 - ・原油: 日量約7.1万バレル
 - ・ガス: 日量約20百万立方フィート
- コンセッション契約: 2025年まで
- 2006年6月に最終投資決定、2009年6月より生産開始
- ピーク生産量: 日量約10万バレル

BM-C-31鉱区

- 当社権益比率: 20%
- 試掘井掘削中

BM-ES-23鉱区

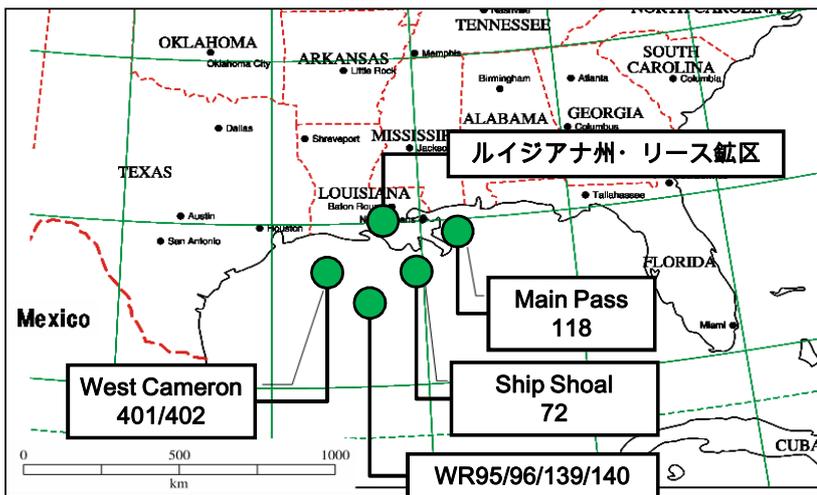
- 当社権益比率: 15%
- 試掘井掘削中

32

* 全鉱区ベース、2011年3月平均日産量

米国メキシコ湾 プロジェクト

INPEX



当社権益比率

- ・ Ship Shoal 72 : 25%
- ・ West Cameron 401/402 : 25%
- ・ Main Pass 118 : 10%
- ・ ルイジアナ州・リース鉱区LSL 19372: 17.5%
- ・ ウォーカー・リッジ95/96/139/140 鉱区: 15%

コンセッション契約

生産量*

- ・ ガス: 日量約7百万立方フィート
- ・ 原油: 日量約1千バレル

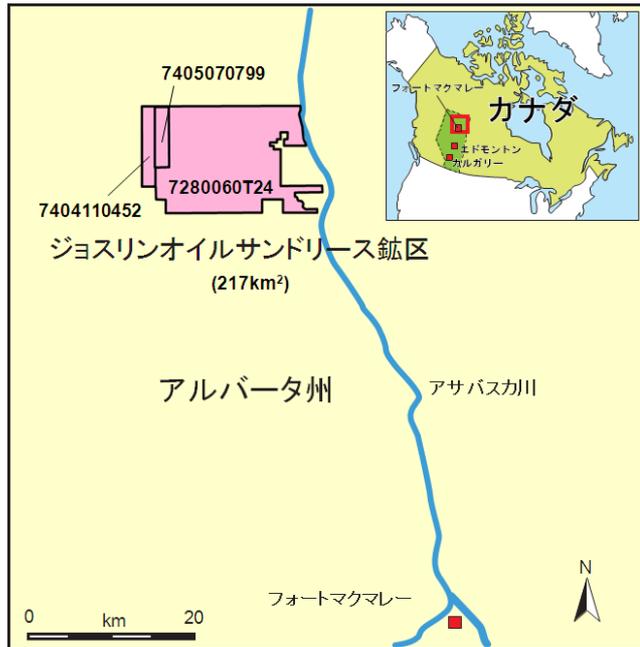


*Ship Shoal72、West Cameron401/402、Main Pass 118、ルイジアナ州・リース鉱区LSLの全鉱区ベース、2011年3月平均日産量

33

ジョスリン オイルサンドプロジェクト インペックスカナダ石油

INPEX



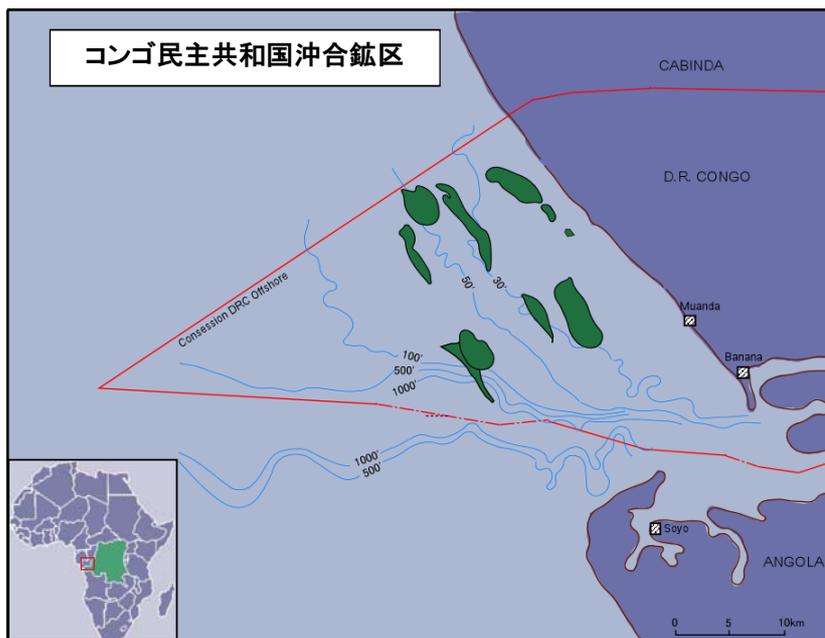
ジョスリンオイルサンドリース鉱区 位置図

- 当社権益比率：
 - ・ 上流開発プロジェクト 10%(オペレーター:TOTAL)
- リース契約(3鉱区の合計約220km²)
 - ・ 7280060T24：無期限
 - ・ 7404110452：2004年11月より15年間のprimary lease*
 - ・ 7405070799：2005年7月より15年間のprimary lease*
- 上流開発プロジェクト：
 - ・ スチーム圧入(SAGD法)による生産は休止中
 - ・ 2010年代後半までに、露天掘り開発により、日量10万バレルの生産を計画(第一段階)、その後、日量20万バレルまで拡大予定(第二段階)
- 改質プロジェクト：
 - ・ エドモントンに建設を予定した改質プラントに代わる改質手段を検討中

*延長可能

コンゴ民主共和国沖合鉱区 帝石コンゴ石油

INPEX

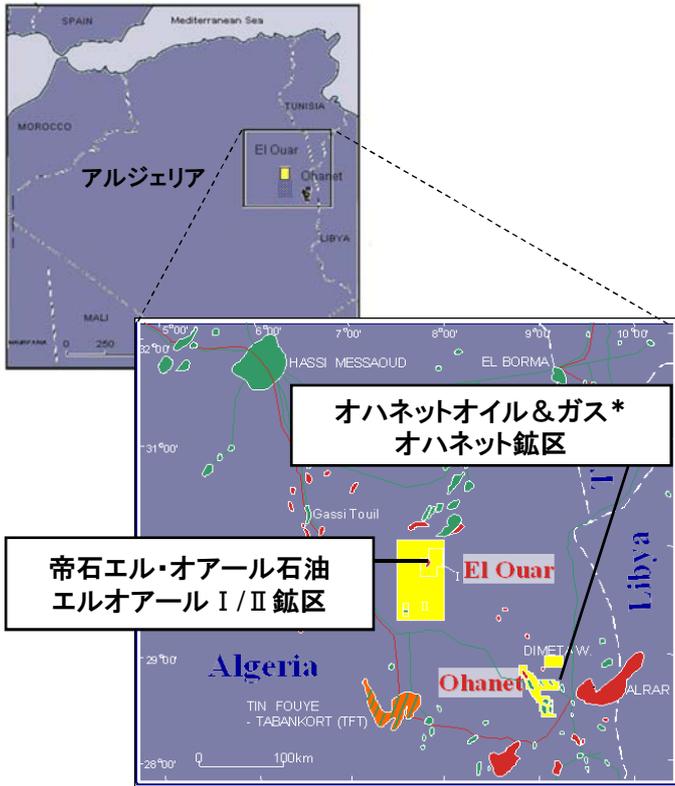


- 当社権益比率:32.28%
(オペレーター:ペレンコ)
- コンセッション契約(1969-2023年)
- 生産開始:1975年
- 生産量*:日量約1.5万バレル

* 全鉱区ベース、2011年3月平均日産量

アルジェリア プロジェクト

オハネットオイルアンドガス*/帝石エル・オアール石油 INPEX



オハネット鉱区

- 権益比率:30%(オペレーター:BHPB)
- リスクサービス契約(2000-2011年)
- 生産開始:2003年10月
- 生産量**
 - ・コンデンセート: 日量約1.4万バレル
 - ・LPG: 日量約1.6万バレル

エル・オアール I / II 鉱区

- 当社権益比率:10.29%(オペレーター: ENI)
- コンセッション契約
- 原油およびガス・コンデンセート田の開発準備中

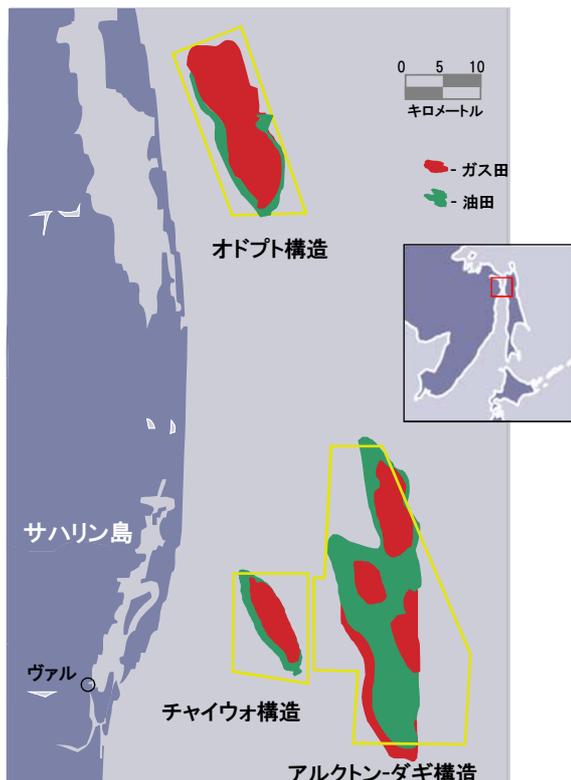
* 当社株主シェア15%

**全鉱区ベース2011年3月平均日産量

36

サハリン I

サハリン石油ガス開発 INPEX



- サハリン石油ガス開発(SODECO):当社保有株式5.75%(石油公団が保有していた50%の株式は経済産業大臣が承継し、当社は諸条件が整えば、最大33%まで取得する方向で調整中)
- SODECOのサハリン I における権益比率: 30.0%
- 生産量*
 - ・原油・コンデンセート 日量約17.3万バレル
 - ・ガス 日量約846百万立方フィート
- オペレーター: ExxonMobil
- PS契約: 2001年12月、20年間の開発期間に移行
- 2005年10月、チャイヴォ構造より生産開始、2006年10月原油輸出開始
- 2010年9月、オドプト構造より生産開始
- 天然ガスをロシア国内に供給中。さらに中国等へ輸出を検討中

*2011年3月平均日産量

37

東シナ海 国際石油開発帝石

INPEX



- 1969年：試掘権を出願、1981・84年：地震探鉱を実施
- 1992年：中国側が平湖油・ガス田を発見、1998年生産を開始。1997～1999年：石油公団が地震探鉱を実施。2004～2005年：石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)が地震探鉱を実施
- 2005年4月：経済産業省が試掘権設定のための処理手続きを開始、これを受け、九州経済産業局に対して、当社出願42,000km²のうち3エリア(約400km²)の試掘権設定の願いを提出。2005年7月：同3エリアの試掘権が付与され、8月に鉱業権設定が完了
- 2008年6月18日：東シナ海における日中間の協力について、両政府間で以下を基本合意。
 - ・日中間の東シナ海における共同開発
 - ・白樺(中国名:「春暁」)油ガス田開発
- 当社は、日中政府間協議の行方を見守りながら、作業着手への準備を整えつつ、関係官庁等と協議した上で進めたいと考えている

主要会社一覧及び石油契約①*

INPEX

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
日本					
・国際石油開発帝石	南長岡ガス田ほか**	日本	コンセッション	-	
アジア/オセアニア					
・国際石油開発帝石	マハカム沖鉱区	インドネシア	PS	-	
・インペックス南マカッサル石油	セブク鉱区(ルビーガス田)	インドネシア	PS	100%	
・ナトゥナ石油	南ナトゥナ海B鉱区	インドネシア	PS	100%	
・MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タンゲーLNG)	インドネシア	PS	44%	
・インペックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アパディ)**	インドネシア	PS	51.9%	
・サウル石油	バユ・ウンダン	チモール海共同開発地域	PS	100%	
・インペックス西豪州ブラウズ石油	WA-37-R(イクシス)/WA-285-P **	オーストラリア	コンセッション	100%	
・インペックスチモールシー	キタン油田	チモール海共同開発地域	PS	100%	
・アルファ石油	ヴァンゴッホ油田	オーストラリア	コンセッション	100%	
・アルファ石油	ラベンスワース油田	オーストラリア	コンセッション	100%	

注：* 2011年3月末時点
**オペレータープロジェクト

主要会社一覧及び石油契約②*



会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
ユーラシア					
・インベックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	PS	51%	
・インベックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	PS	45%	
中東					
・ジャパン石油開発	ADMA鉱区(アッパーザクム油田等)	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	
アフリカ					
・帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	コンセッション	100%	
・オハネットオイルアンドガス	オハネット鉱区	アルジェリア	サービス	15%	
・帝石エル・オアール石油	エル・オアール I / II 鉱区	アルジェリア	コンセッション	100%	
米州					
・インベックスカナダ石油	ジョスリンオイルサンドリース鉱区	カナダ	コンセッション	100%	
・テイコク・オイル・アンド・ガス・ベネズエラ	コパ・マコヤ** / グアリコオリエンタル	ベネズエラ	ジョイントベンチャー	100%	
・Teikoku Oil (North America)	Ship Shoal 72ほか	米国	コンセッション	100%	
・Frade Jap ã o Petr3leo Limitada	フラージ鉱区	ブラジル	コンセッション	37.5%***	

注: * 2011年3月末時点

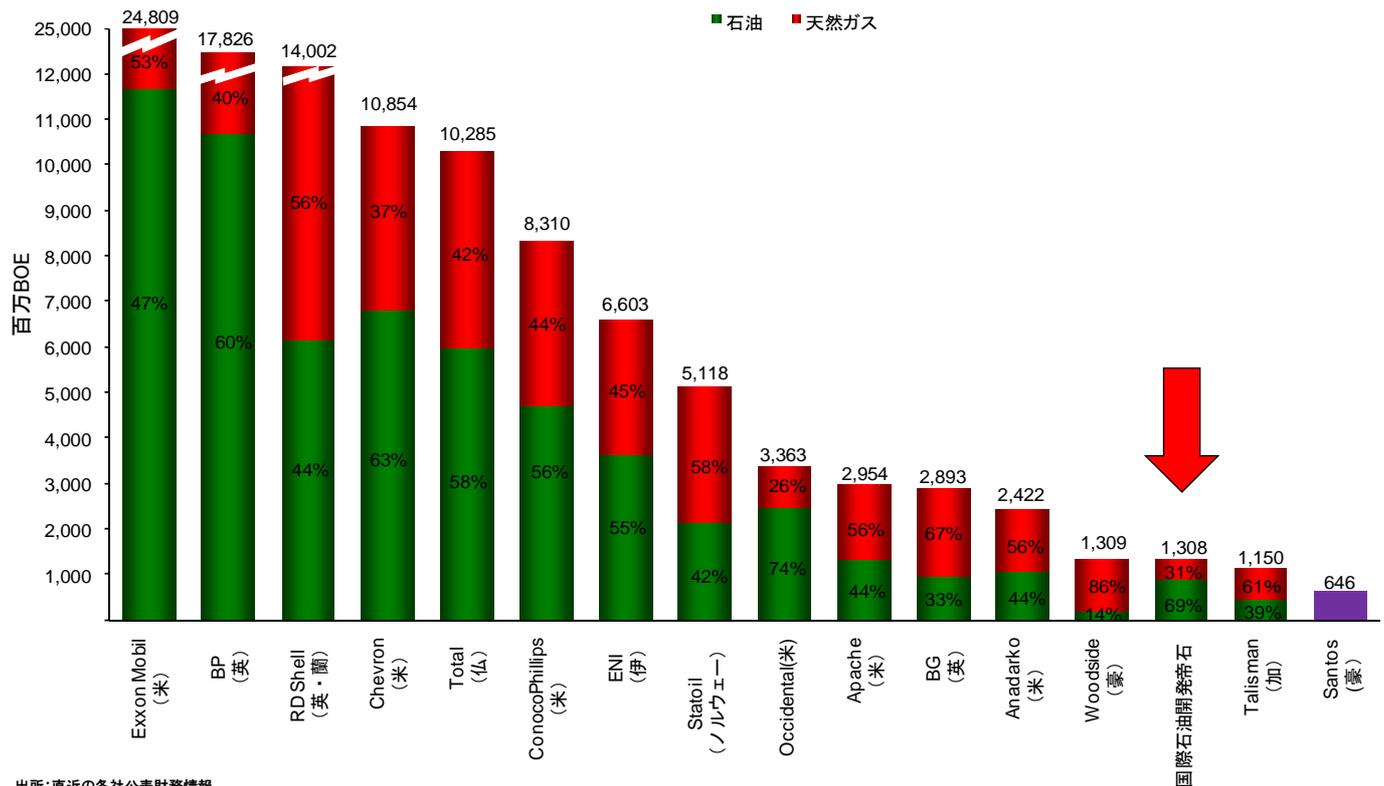
**オペレータープロジェクト

***インベックス北カンボス沖石油(当社の持分法適用関連会社)の子会社。出資比率(37.5%)は同社を通じた当社の実質的な比率。



その他

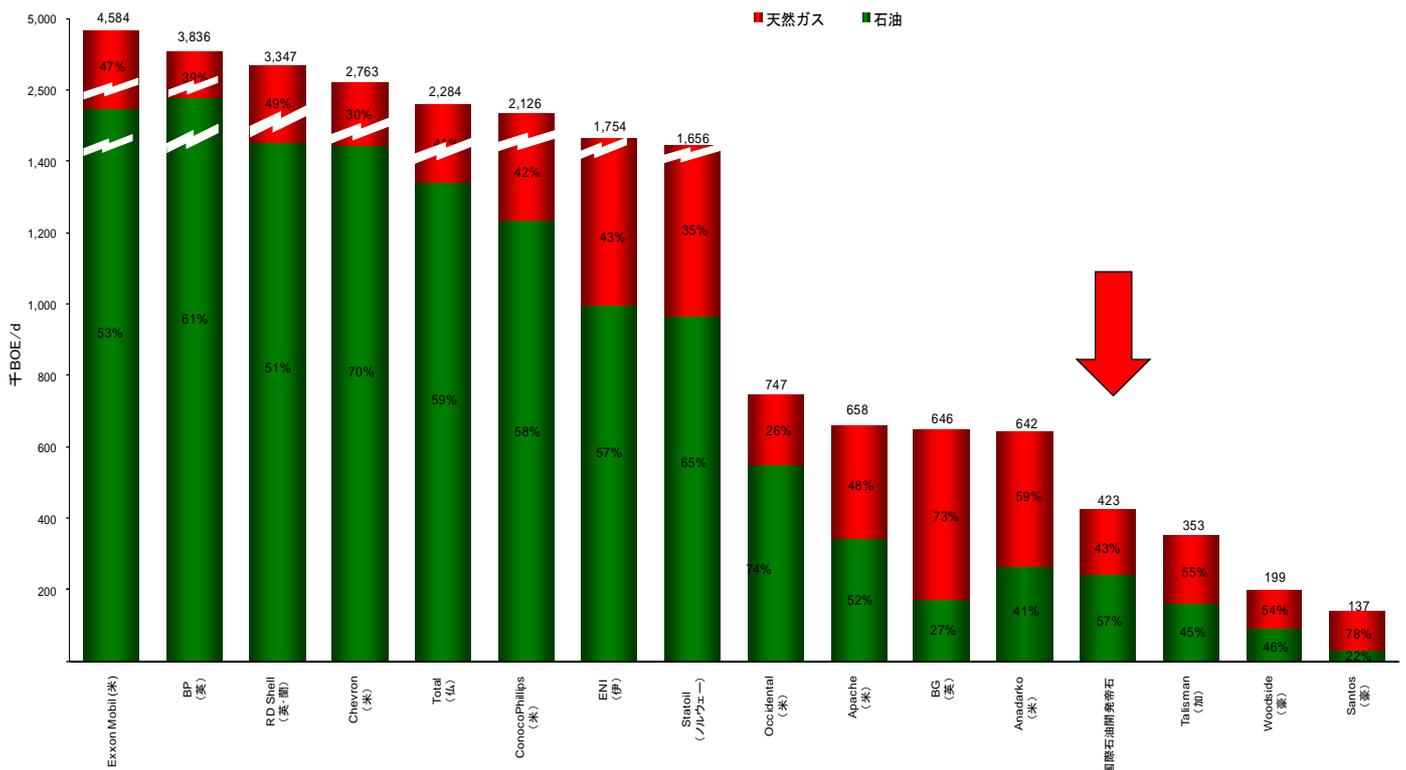
メジャー・主要な独立系石油ガス会社との 確認埋蔵量の比較



出所:直近の各社公表財務情報

注: * 各社2010年12月末時点であるが、当社は2011年3月末時点の米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った値(暫定値)。埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer & MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定している。石油にはピチューメン、合成原油等非常産型資源を含む。比較企業として産油国営企業は除外している。

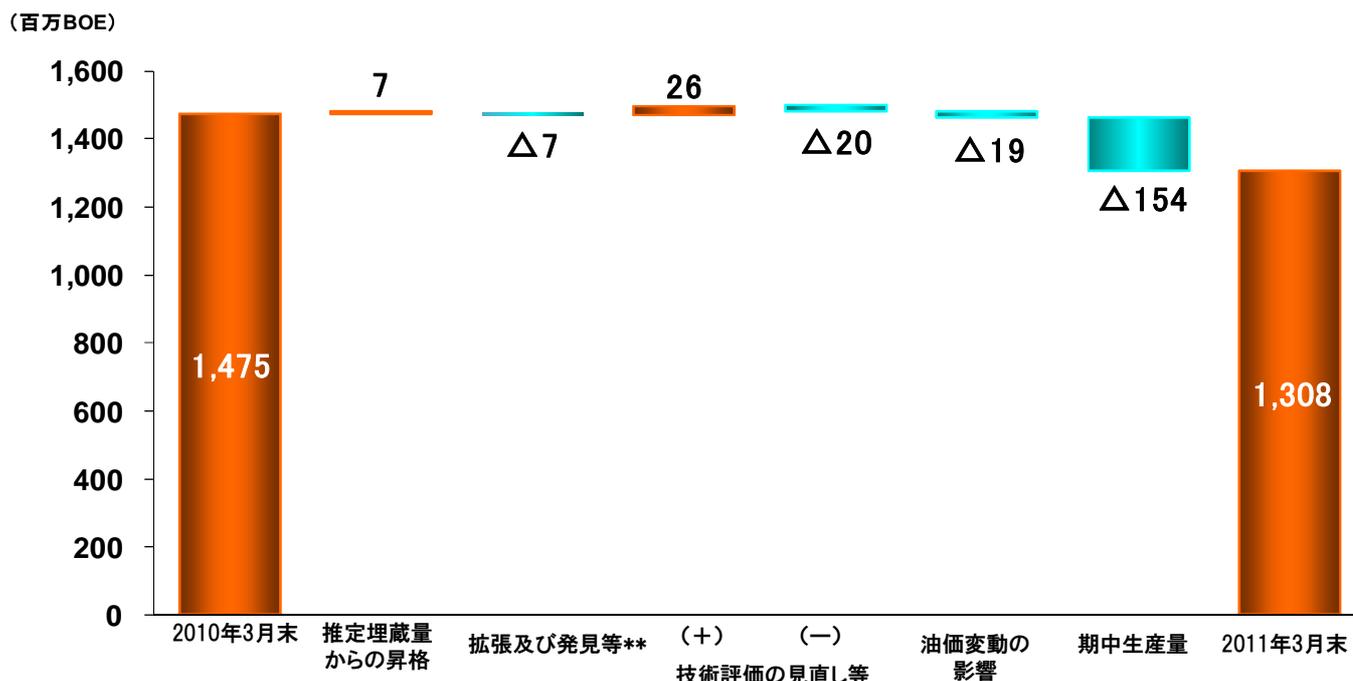
メジャー・主要な独立系石油ガス会社との 生産量の比較



出所:直近の各社公表財務情報

注: * 各社2010年12月期であるが、当社は2011年3月期の米国証券取引委員会(SEC) 規則に従った数値。石油にはピチューメン、合成原油等、非常産型資源を含む。持分法適用会社の持分を含む。比較企業として産油国営企業は除外している。

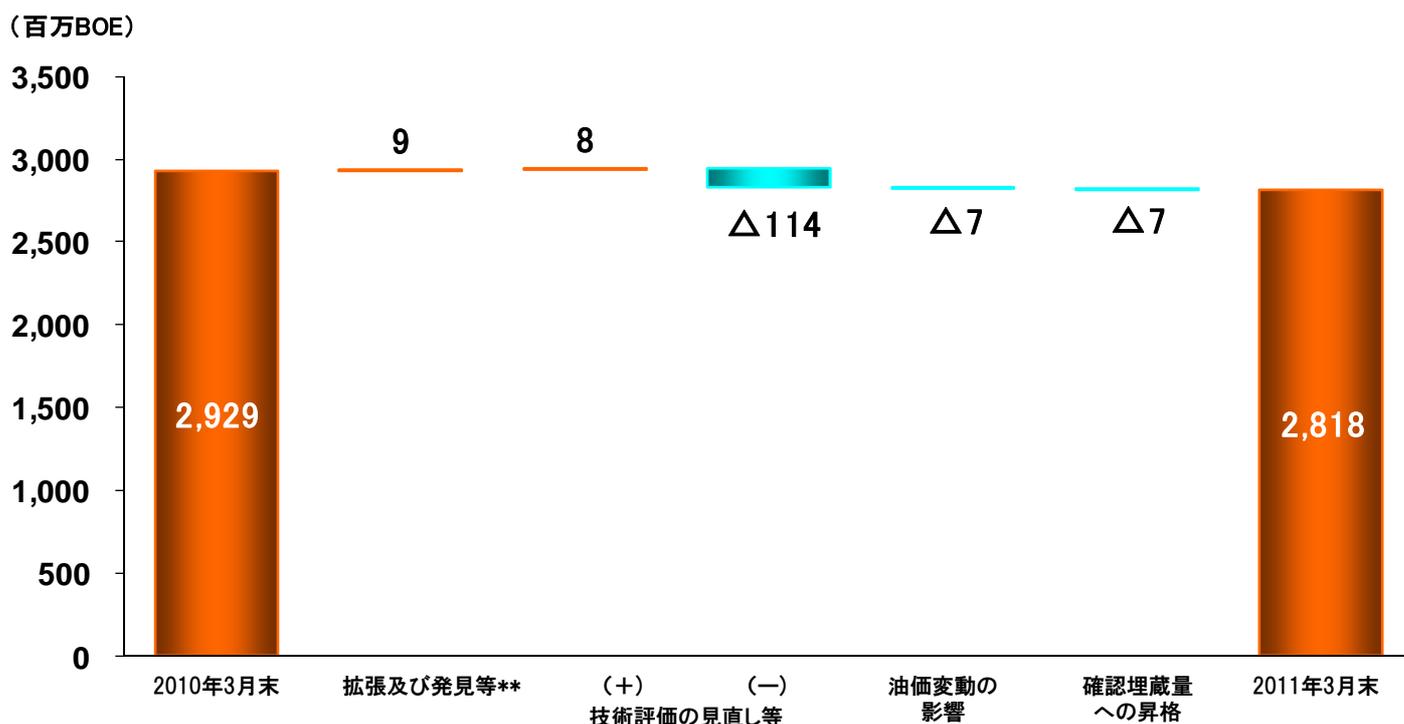
確認埋蔵量*の推移の要因分析



*埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer & MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値(暫定値)である。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会 (SEC) 規則に従い評価・算定している。

**買収及び売却等を含む。

推定埋蔵量*の推移の要因分析



*埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer & MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値(暫定値)である。推定埋蔵量は、SPE(米国石油技術者協会)/WPC(世界石油会議)/AAPG(米国石油地質技術者協会)/SPEE(石油評価技術者協会)の2007年3月に承認されたSPE-PRMSIに従い評価・算定している。

**買収及び売却等を含む。

- 確認埋蔵量(proved reserves)の定義は、米国証券取引委員会規則 S-X Rule 4-10に従っており、地質的・工学的データに基づき、現在の経済条件及び操業条件の下で、契約期限までの間に合理的な確実性をもって回収することが可能である石油・ガスの数量(estimated quantities)とされております
- 確認埋蔵量に分類されるためには、炭化水素を採取するプロジェクトが開始されているか、妥当な期間内にプロジェクトを開始する合理的な確実性がなければならず、石油・ガス業界で用いられる埋蔵量の定義の中でも保守的な数値として広く認識されております
- また、米国証券取引委員会規則の定義による確認埋蔵量は、既存の坑井、施設及び操業方法を利用して回収することができる確認開発埋蔵量(proved developed)と将来掘削される坑井を利用して回収することができる確認未開発埋蔵量(proved undeveloped)の二つに区分されております

推定・予想埋蔵量の定義

- 推定埋蔵量(probable reserves)及び予想埋蔵量(possible reserves)の定義は、石油技術者協会(SPE)が世界石油会議(WPC)・米国石油地質技術者協会(AAPG)・石油評価技術者協会(SPEE)の支援の下に策定した基準(2007PRMS)に従っており、地質的・工学的データに基づき、確認埋蔵量に追加して商業的に回収することが可能と推定される石油・ガスの数量とされており、回収可能性の高さによって推定埋蔵量あるいは予想埋蔵量に分類されます
- 確率論的手法を用いて推定埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量と推定埋蔵量を合計した数量(2P)を回収できる確率が50%以上であることが必要とされています
- 同じく予想埋蔵量を算定する場合には、確認埋蔵量、推定埋蔵量及び予想埋蔵量を合計した数量(3P)を回収できる確率が10%以上であることが必要とされています

総額約4兆円

イクシス、アバディ、カシャガン、その他開発探鉱プロジェクト等に対する
2011年3月期～2017年3月期の投資額

公募増資

- 公募増資による資金
(2010年8月実施済。
約5,200億円)

キャッシュフロー

- 毎年の営業キャッシュ・フロー
(参考：2010年3月期
実績 2,414億円)
- 手元の現金及び現金同等物

銀行借入

- JBIC*及び市中銀行からの借入
- 市中銀行借入の一部に対するJOGMEC**による保証
- プロジェクト・ファイナンス

* JBIC： 国際協力銀行、**JOGMEC： 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

公募増資の概要

発行形態	グローバル・オフリング(国内一般募集及び海外募集)
発行価格/募集価格	402,050円/417,100円
調達額	5,216億1,967万円
増加する資本金	2,608億9百万円
新規発行株数	1,297,400株
増資後発行済株式総数	3,655,809株(甲種類株式を除く)
払込期日	一般募集分：2010年8月2日
	オーバーアロットメントによる第三者割当増資分：2010年8月31日

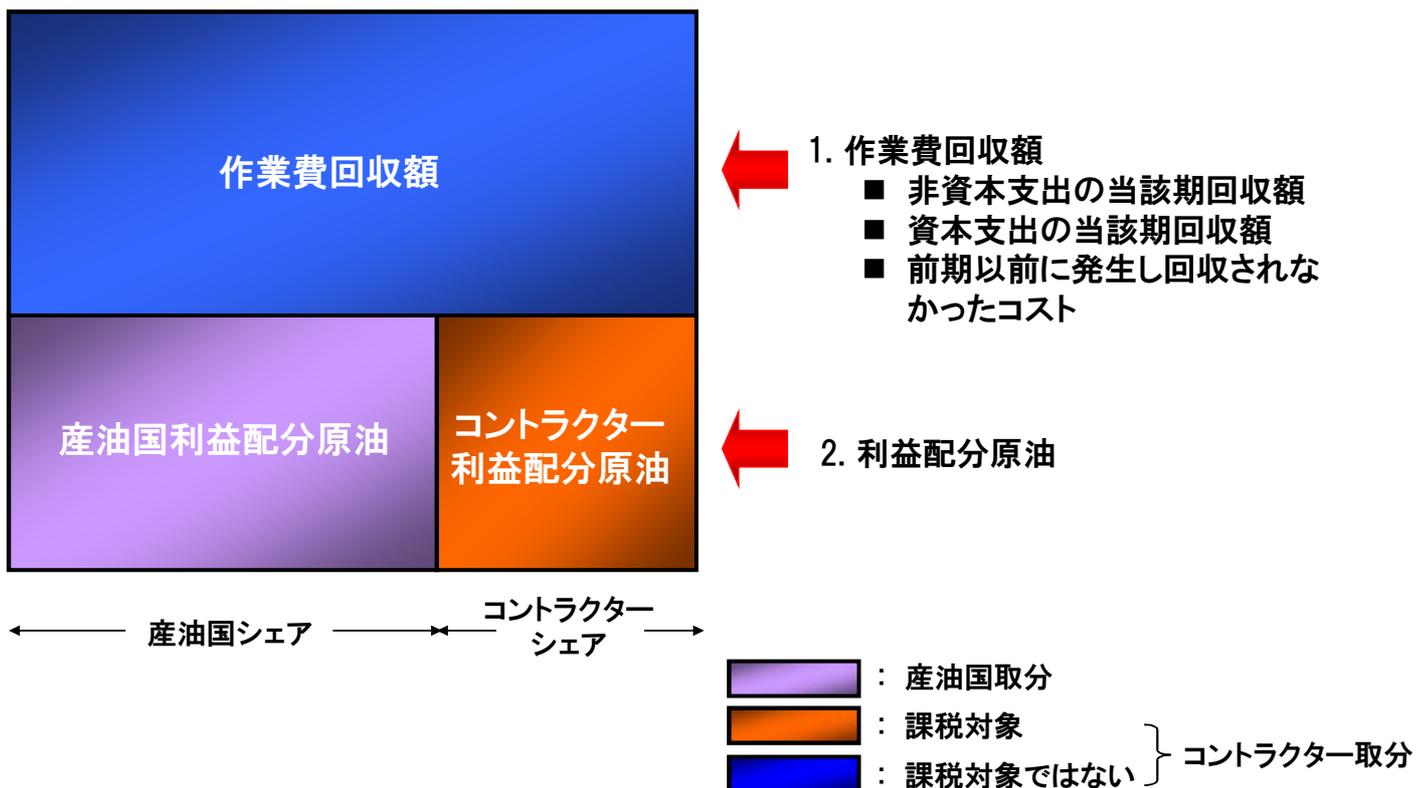
低コストでの有利な資金調達

健全なバランス・シートを維持し、
資金調達の安定性と柔軟性を確保

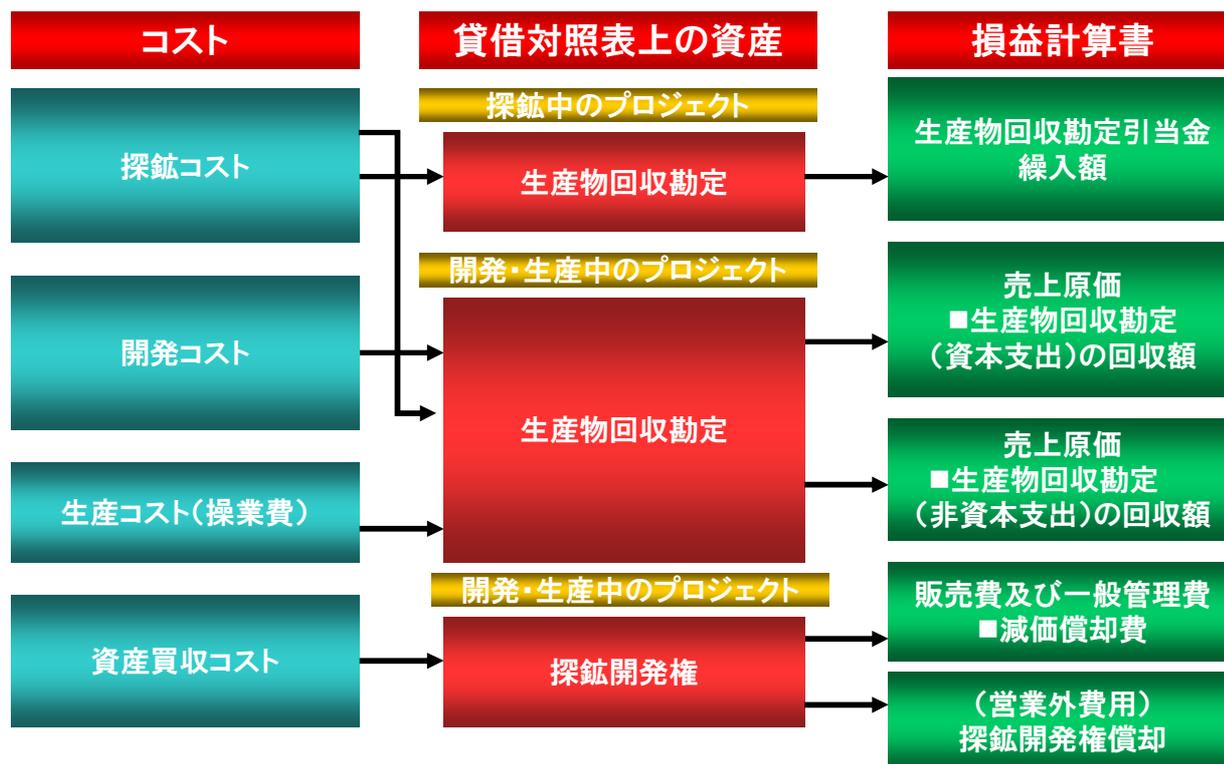
JBIC及びJOGMECの制度金融の
活用により開発資金を調達

- イクシス、アバディ及びカシャガンの3大プロジェクトに必要な投資を確実にするための資金調達力を維持
- 将来の新規プロジェクトへの継続的な投資を実現するために、バランス・シートを更に強化
- 長期的財務レバレッジ水準(目標値)
 - 自己資本比率:50%以上
 - 使用総資本に対する純有利子負債の比率:20%以下

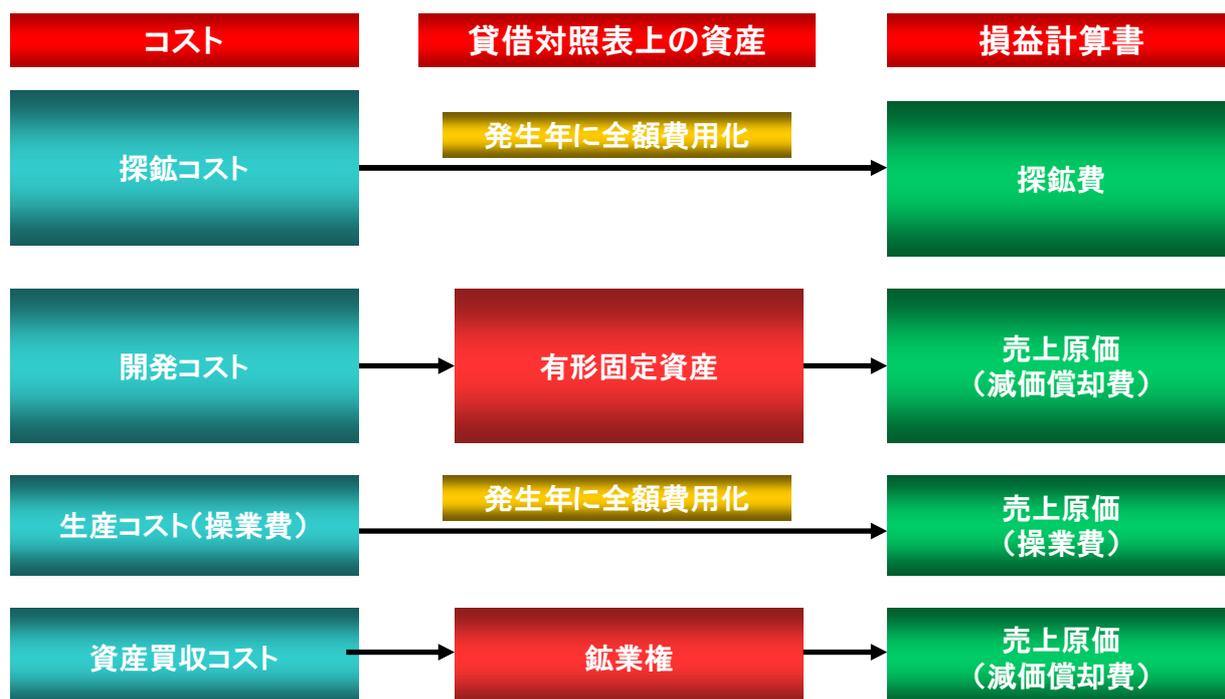
生産分与契約



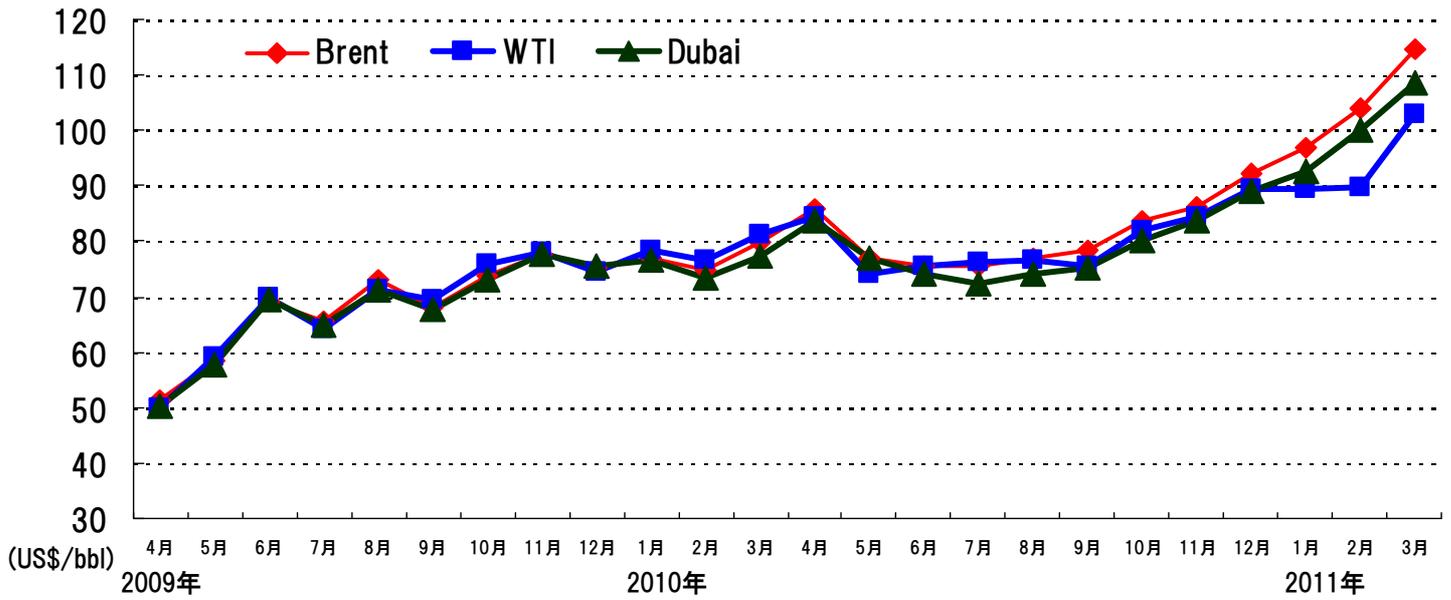
生産分与契約に係る会計処理



コンセッション契約に係る会計処理



油価の推移



	2010年 3月期	2010年												2011年												2011年 3月期
	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均												
Brent	70.39	85.75	77.00	75.66	75.36	77.12	78.42	83.54	86.16	92.25	96.91	104.03	114.67	87.24												
WTI	70.71	84.58	74.12	75.40	76.38	76.67	75.55	81.97	84.31	89.23	89.58	89.74	102.98	83.38												
Dubai	69.58	83.59	76.78	73.99	72.49	74.09	75.12	80.22	83.65	89.05	92.52	100.24	108.71	84.20												